2002 年度　修士設計

Crescent

～東村立新富弘美術館国際設計競技を通じて～

2002 年 1 月

指導教員　　吉田　晋

高知工科大学大学院工学研究科基盤工学専攻
社会基盤工学コース　1055159
三木　結花

Crescent

～Through The International Design Competition for a New Tomihiro Museum of *SHI-GA* (poems and watercolor paintings) in Azuma Village ～

1055159 Yuka MIKI

Abstract

The design of the museum was executed for the requirement of Master of Arts. This design of the museum is also for “The International Design Competition for a New Tomihiro Museum of *SHI-GA* (poems and watercolor paintings) in Azuma Village”.

The Tomihiro Museum of *SHI-GA* (poems and watercolor paintings) was born in the hometown of Tomihiro Hoshino, Azuma Village. It is a museum which continually talk to the people of the dignity and gentleness of life through its poems and watercolor paintings. Azuma Village is just a little village with 4,000 or so residents, surrounded by the deep green poetry of the mountains, the blue sky, and four seasons of wildflowers, groves of rhododendron, and red striped azalea trees. Since it opened in Spring, 1991 as a village revitalization project, the Tomihiro Museum has been standing in the midst of this beautiful scenery.

Hoshino's pieces tell you unpretentiously but firmly of the courage and joy of living which comes from the midst of ordinary nature.

So, the designer proposes the very space which is suitable for the appreciation of SHI-GA as a new Tomihiro Museum.

Light Column × Shadow Column × Nature ＝ The space for SHI-GA

Light Column/ Shadow Column has SHI-GA size as a basic module. It is the continuous space where a diameter changes from 4m to 1.5m from the viewpoint of stage. Then, it plays a structurally main part. Light Column/ Shadow Column is space to think how to live through the communication with SHI-GA. It can enjoy SHI-GA with Light Column under the natural light. Then, it can enjoy SHI-GA with Shadow Column under the artificial light. Then, it can be used for a various exhibition like two sheets one set five sheets one set again. Light Column/ Shadow Column is arranged continuously in the new moon-shaped with making a diameter change around the courtyard.

Keyword;

Tomihiro Museum, SHI-GA, Crescent , Light Column, Shadow Column, Nature, The space for SHI-GA

要　旨

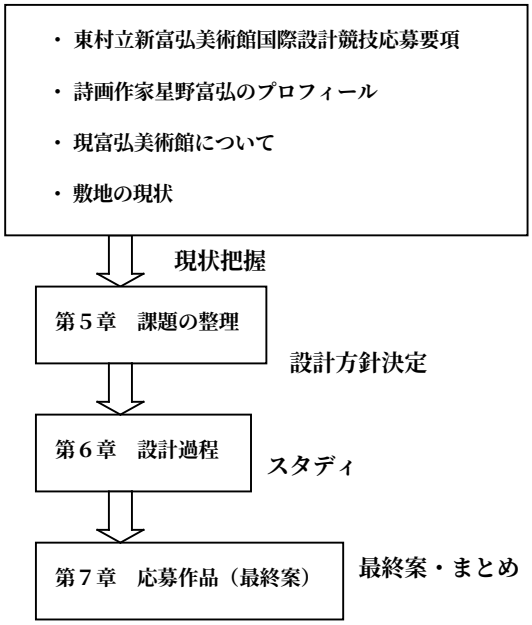
Crescent
～東村立新富弘美術館国際設計競技を通じて～

社会基盤工学コース

1055159　三木　結花

本修士設計では、東村立新富弘美術館建設国際設計競技に参加し、詩画空間にふさわしい新富弘美術館を提案することを目的としている。

本修士設計は、七つの章で構成されている。第１章では、東村立新富弘美術館国際設計競技の応募要綱を整理し、まとめている。第２章では、星野富弘のプロフィールについてまとめ、彼の生い立ちや作品などを理解していく。第 3 章では、現在の富弘美術館についてまとめ、問題点・課題等を把握している。第 4 章では、敷地の現状を調査したものをまとめている。第 5 章では、第２章～第 4 章までのことをふまえ、課題の整理として設計の方向性を決定し、施設の必要諸室の面積を算出している。第 6 章では、実際の設計過程で作製した案についてまとめている。第 7 章では、最終案を掲載し、まとめている。



1.　東村立新富弘美術館国際設計競技の概要

東村立富弘美術館は、詩画作家・星野富弘のふるさと群馬県勢多郡東村に、東村のふるさと創世事業により 1991 年春に開館した美術館である。

今年は 10 周年を迎え、この間に、美術館に訪れた人は 370 万人を突破し、文字通り世界規模で比較対照してみても、他に例を見ることのできない素晴らしい美術館である。

一方、予想以上の反響に、 1996 年に改装と増築工事を実施し、施設の充実を図ったが混雑の根本的な解消には至らなかった。混雑は館内の室温や湿度の上昇をもたらし、室内環境の悪化とともに作品に対しても悪い影響を及ぼす結果となった。

そこで、「東村立新富弘美術館国際設計競技」を開催し、やさしさにいつでも出会える美術館の創造を目指して、世界中から多彩なアイディアとデザインの提案を広く求めているものである。

この新富弘美術館のテーマとして、以下のことが大きなテーマとして挙げられている。

- **東村の豊かな自然の佇まいを生かし、詩画作家・星野富弘という生き方に出会える場所であること。**
- **詩画という表現形式に最もふさわしい鑑賞の場であることなどを基本として、星野富弘さんが追い求め続ける「やさしさ」や生きることへの「励まし」、つまり「愛」の世界を造り上げること。**

表1　計画条件

計画地	群馬県勢多郡東村大字草木
敷地面積	約 70000 ㎡ （計画地約 65000 ㎡、借地約 5000 ㎡）
床面積	約 3000 ㎡
建築工事費＋外構工事費	12 億円
展示作品数	100～120 点

2.　設計の方向性

計画地は、豊かな自然が多く残る場所にある。そのため、周辺の美しい景観を損ねない美術館としなければならない。また、計画地は、借地を含めると４つの敷地が与えられている。これらの敷地をどう利用していくかも考える必要がある。本修士設計の第２章～第４章までの美術館の現状や敷地のことを整理し、以下の設計の方向性を定めた。

・星野富弘の詩画と向き合う事のできる展示空間を提案する。
・詩画作品の展示空間は、作品自体があまり大きい物ではないことと、一つの詩と絵をゆっくり味わう為には、大きな展示空間は必要としないと考える。そこで、展示空間は、１つ１つの詩画作品をじっくり鑑賞することのできる空間（例えば、小さな空間、若しくは展示室内で区切られた空間など）を提案する。
・詩画を鑑賞する美術館とは別に、周りの自然環境を活かした自然を観賞する空間を提案する。
・それら２つの空間を分離したり、融合したりできる空間を提案する。
・管理部門と一般客の動線を分けるようにする。
・現在ある美術館との関係を考える。
・外構が有効に利用できるように工夫する。

これらを設計の方向性とし、スタディを重ね、案を決定していくこととした。

3.　応募作品の設計コンセプト

以下が、最終的に応募した案の設計コンセプトである。

星野富弘の詩画は、花や草や樹といった見落としがちな身近な自然を詩と画によって再構成することにより、一人の人間あるいは生命（いのち）あるものとして生きることの真実を訴えている。一方、大空間をパーティションによって仕切るだけの従来型の美術館では、生きることを問う詩画の鑑賞空間としてふさわしいとは言えない。そこで、我々は新富弘美術館として詩画の鑑賞にふさわしい空間を提案する。

光の筒　× 影の筒 × 自然 ＝詩画のための空間
(Light Column) (Shadow Column) (Nature)

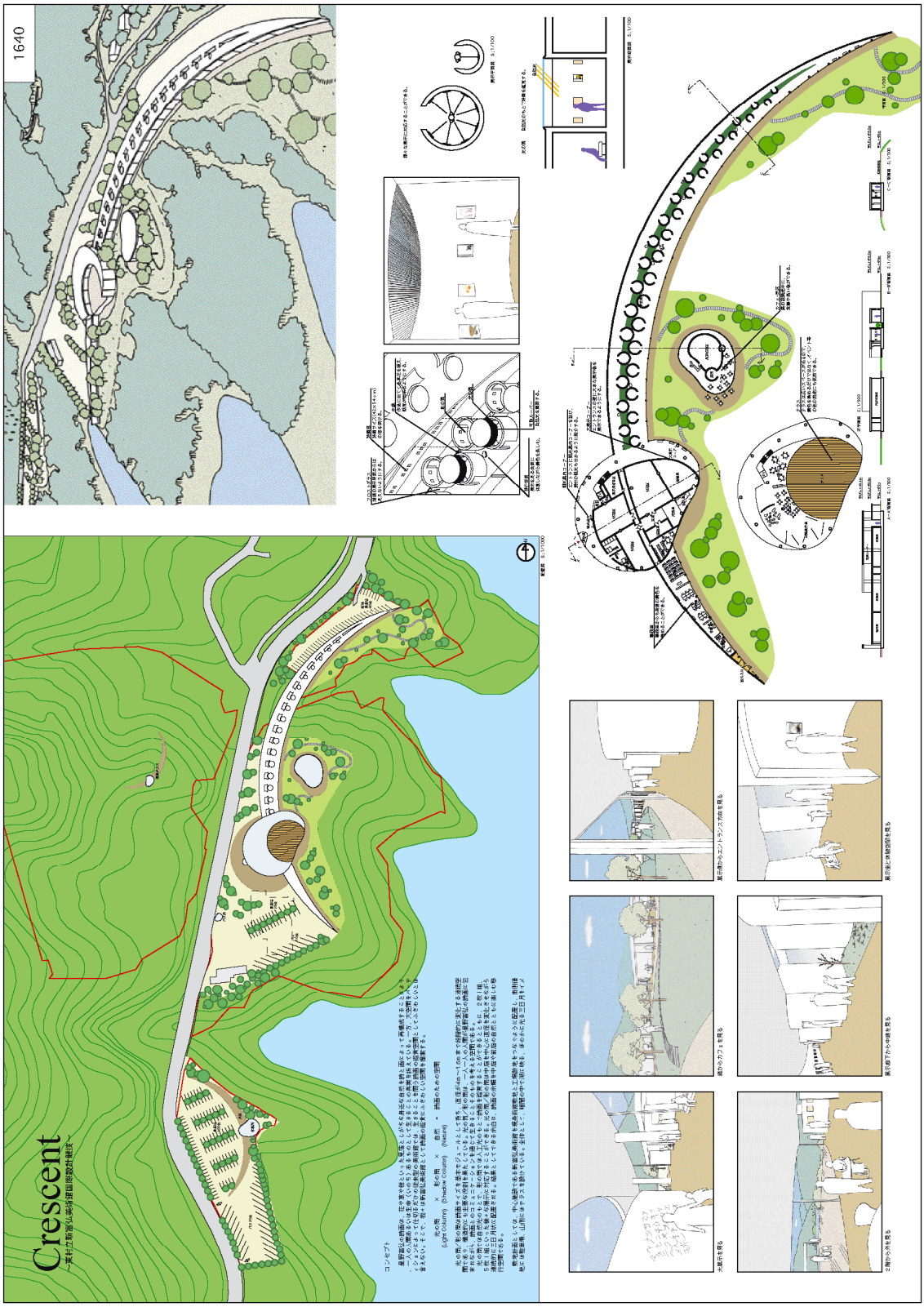
光の筒／影の筒は詩画サイズを基本モジュールとして持ち、直径が 4m～1.5mまで段階的に変化する連続空間であり、構造的にも主要な役割を果たしている。光の筒／影の筒は、一人一人の人間が星野富弘の詩画に包まれながら、詩画とのコミュニケーションを通じて生きることそのものを考える空間である。

光の筒では自然光のもとで、影の筒では人工光のもとで詩画を鑑賞することができるとともに、２枚１組、５枚１組といった様々な展示に対応することができる。光の筒／影の筒は中庭を中心に直径を変化させながら連続的に三日月状に配置される。結果としてできる余白は、詩画の余韻を中庭や前庭の自然とともに楽しむ移行空間である。

敷地計画としては、中心施設である新富弘美術館を現美術館敷地と工場跡地をつなぐように配置し、南側借地には駐車場、山側にはテラスを設けている。全体として、暗闇の中で湖に映る、ほのかに光る三日月をイメージしたものとしている。

4. 応募作品

以下の作品は、設計競技に提出した応募作品である。（A１版の縮小）



「目次」

はじめに

１．　東村立新富弘美術館建設国際設計競技要綱

1-1．　主旨　1

1-2．　名称　2

1-3．　審査委員　2

1-4．　賞　2

1-5．　主催・事務局　2

1-6．　競技方式　3

1-7．　競技スケジュール　3

1-8．　応募資格　3

1-9．　登録　3

1-１０．　計画地　4

1-１１．　計画条件　4

1-１２．　事業スケジュール　5

1-１３．　応募作品の提出方法等　6

1-１４．　審査方法　6

1-１５．　その他　6

２．　詩画作家のプロフィール

2-1．　略歴　9

2-2．　書籍・文献一覧　9

2-3．　主な作品　10

３．　現富弘美術館について

3-1．　美術館のあゆみ　11

3-2．　美術館の現状　11

3-3．　入館者の推移　14

3-4．　美術館来館者時間帯別入館調べ（個人及び団体）　15

3-5．　美術館の運営　17

3-6．　現状の問題点・課題　18

４．　敷地の現状
４-１．　位置　23
４-２．　気候　24
４-３．　周辺施設　25
４-４．　計画敷地の設計範囲　26
４-５．　現況写真　27
４-６．　敷地地盤　32
５．　課題の整理
５-１．　設計の方向性　33
５-２．　施設の諸室必要面積　34
６．　設計過程
６-１．　第１次案作製（配置パターン）　35
６-２．　第２次案作製（良い点・悪い点）　46
６-３．　案の選定　57
６-４．　第３次案作製　58
６-５．　案の選定　63
６-６．　最終案　67
７．　応募作品（最終案）
７-１．　応募提出作品（縮小版）　68
７-２．　主旨、配置図　69
７-３．　平面図、断面図　70
７-４．　展示室の説明　71
７-５．　まとめ　72

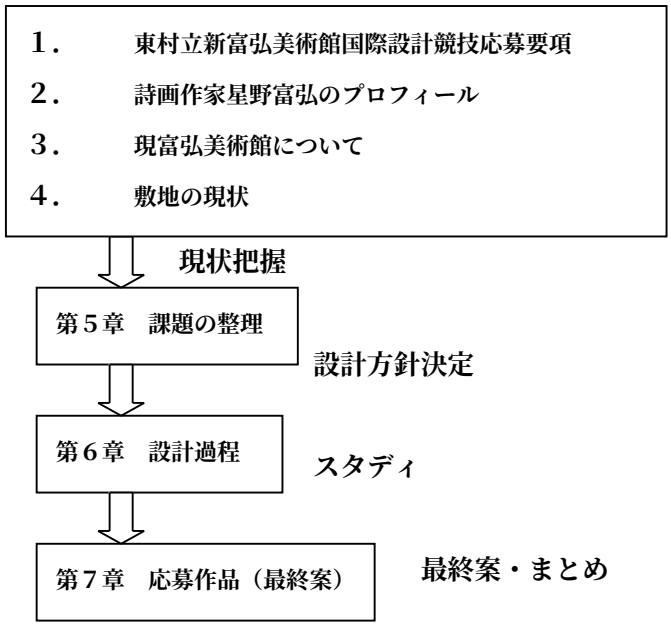
謝辞
参考資料
参考文献

はじめに

本修士設計では、東村立新富弘美術館建設国際設計競技に参加し、詩画空間にふさわしい富弘美術館を提案することを目的としている。

本修士設計は、七つの章で構成されている。

第１章では、東村立新富弘美術館国際設計競技の応募要綱を整理し、まとめている。第２章では、星野富弘のプロフィールについてまとめ、彼の生い立ちや作品などを理解していく。第 3 章では、現在の富弘美術館についてまとめ、問題点・課題等を把握している。第 4 章では、敷地の現状を調査したものをまとめている。第 5 章では、第 2 章～第 4 章までのことをふまえ、課題の整理として設計の方向性を決定し、施設の必要諸室の面積を算出している。第 6 章では、実際の設計過程で作製した案についてまとめている。第 7 章では、最終案を掲載し、まとめている。



１．東村立新富弘美術館建設国際設計競技　応募要綱

この章は、東村立新富弘美術館建設国際設計競技の応募要項である。

1-1．　主旨

水彩の詩画を通して身近な自然の美しさや生命の輝きを語りつづける東村立富弘美術館は、星野富弘さんのふるさと勢多郡東村に誕生した美術館です。

不慮の事故での 9 年間の入院生活から久しぶりにふるさとに帰った星野さんを迎えたのは、子どもの頃から慣れ親しんだ、そんな東村の自然でした。でもそれは、初めて見るような美しさだったといいます。四季折々の野の草花やシャクナゲの群生、紅キリシマツツジの大木など、青空と緑深い詩情豊かな山々に囲まれた東村、人口がわずか 4,000 人の小さな村です。東村のふるさと創世事業により 1991 年春に開館した富弘美術館は、そんな美しい自然の中に建っています。

一歩館内に入ると、星野さんの珠玉の作品がいつもやさしく迎え入れてくれます。星野さんの作品は生きる勇気や喜びを、なにげない日常や自然のなかから、さりげなく、しかししっかりと教えてくれているようです。

今年は 10 周年を迎えました。この間に、美術館に訪れた人は 370 万人を突破し、文字通り世界規模で比較対照してみても、他に例を見ることのできない素晴らしい美術館です。

一方、予想以上の反響に、1996 年に改装と増築工事を実施し、施設の充実を図りましたが混雑の根本的な解消には至りませんでした。混雑は館内の室温や湿度の上昇をもたらし、室内環境の悪化とともに作品に対しても悪い影響を及ぼす結果となりました。そこで、早期の整備が必要であるとして、1999 年に、「東村立富弘美術館将来計画策定検討委員会」を発足させ、また 2000 年に、「東村立富弘美術館建設検討委員会」を組織し新美術館の実現に向けて具体的な検討を行ってきました。

すでに富弘美術館は多くの人々の熱意により、世界に向けて独自の文化を発信しています。このたびの新美術館建設は、東村の誇りとして、村民が一体となってさらに文化の香り高い素晴らしい東村を作り上げていこうとする村民 4,000 人の決意の象徴でもあります。

新富弘美術館は、東村の豊かな自然の佇まいを生かし、星野富弘さんという生き方に出会える場所であること、詩画という表現形式に最もふさわしい鑑賞の場であることなどを基本として、星野富弘さんが追い求め続ける「やさしさ」や生きることへの「励まし」、つまり「愛」の世界を造り上げることであり、現代の情報技術万能と物質至上主義社会の対峙的なコンセプトとして、日本人だけでなく人類普遍の真理として世界に発信すべき最も大切なテーマであると考えます。

美しい自然が残された東村でも、世界の最先端の大都市でも、私たちはいま、生きることの困難の中であえいでいるという条件では同じです。目もくらむような困難の中から、生き

ることへの圧倒的な肯定へと歩みを進めてきた富弘さんの世界を、だから私たちは必要としているのではないでしょうか。そこで、「東村立新富弘美術館国際設計競技」を開催し、やさしさにいつでも出会える美術館の創造を目指して、世界中から多彩なアイディアとデザインの提案を広く求めます。

1-2．　名称

「東村立新富弘美術館国際設計競技」（以下、国際設計競技とする。）

1-3．　審査員

委員長	伊東　豊雄（建築家）
委員	山本　理顕（建築家）
	隈　　研吾（建築家）
	黒田　亮子（群馬県立館林美術館館長）
	中川　　武（東村立富弘美術館建設検討委員会委員長・早稲田大学教授）
特別委員	ヴィール・アレッツ（建築家・オランダ）

1-4．　賞

第１次審査通過者を受賞者として、その中から最優秀賞、優秀賞を各１点づつ選出する。

（1）最優秀賞	１点	２００万円
（2）優 秀 賞	１点	１００万円
（3）佳　　作	３点	５０万円

1-5．　主催・事務局

（1）　主　催：　　群馬県勢多郡東村

（2）　事務局：　　勢多郡東村立富弘美術館内／国際設計競技事務局

住所　〒376-0302
群馬県勢多郡東村草木８６
TEL　0277-95-6333
Fax　0277-95-6100
電子メール　tomihiro@vill.seta-azuma.gunma.jp
ホームページ　http://www.vill.seta-azuma.gunma.jp/htm/tomihiro.htm

1-6．　競技方式

二段階審査方式による一般公募型設計競技

1-7．　競技スケジュール

（1）インターネット応募要項開示	**２００１年8月１日～**
（2）インターネット応募登録期間	**２００１年8月１日～１０月３１日**
（3）応募作品受付期間	**２００１年１２月　１日～２００２年1月5日（当日消印有効）**
（4）応募作品公開展示	**２００２年　1月２５日～2月1日**
（5）第１次審査	**２００２年　2月　2日～2月3日**
（6）最終審査	**２００２年　2月２３日**

1-8．　応募資格

（1）　国籍は問わない。

（2）　建築士法（昭和 25 年法律第 202 号）に基づく一級建築士である者とする。

（3）　外国においては、本競技の対象となる建築物の設計監理業務を行う資格を有する者（以下(2)(3)項該当者を有資格者という）とする。

（4）　有資格者を擁する法人。この場合、本競技に関する主務者は有資格者とする。

（5）　有資格者を主務者とする共同体。この場合、共同体とは、個人及び法人からなるグループで、連帯して本競技に参加する者とする。

（6）　チーム応募者はチーム名、代表者を１人決める。

（7）　審査委員及び審査委員自らが経営又は役員、顧問を務める組織（大学の研究室を含む）の現に属する者及びその者が加わったチームは応募できない。

（8）　１応募者１作品の応募とする。

1-9．　登録

（1）　国際設計競技に応募しようとする者、またはチームは、定められた登録様式に従ってインターネットで登録。

（2）　事務局は応募登録番号を発行する。

（3）　登録番号が記載されていない応募作品は無効となる。

（4）　登録は２００１年８月１日から１０月３１日までの間に行う。

1-１０．　計画地

勢多郡東村立新富弘美術館敷地内

（1）所 在 地　　群馬県勢多郡東村大字草木８６－１他

（2）敷地面積　　約 70,000m2

・計画地　約 65,000m2（平地部分 10,000m2）

・借地　　約 5,000m2

外構計画は借地部分を含みます。

ただし借地部分には、建物は建てられません。

1-１１．　計画条件

（1）床 面 積

約 3,000m2

（2）建築工事費＋外構工事費

12 億円

（3）展示作品数

100〜120 点

額のサイズ：

最も多いもの　　54cm×42cm

最も大きいもの　57cm×76cm

（4）駐車台数

130 台

内訳：自家用車 100 台、バス 30 台

別に混雑時のみ臨時駐車場として利用できるスペース：自家用車 70 台

（5）入場者数

現在 40 万人／年

最大 8,000 人／日（現在最大 6,000 人／日）

平均 1,625 人／日（現在平均 1,300 人／日）

（6）敷地法的条件

・都市計画区域外

・河川や国道の上空を専用する場合は必要最小限の範囲で占用許可が必要となりす。

・構造物の計画は標高 457m 以上としてください。

・積雪は 1100N／m2 で計算してください。

（７）既存建物

屋外トイレは開館後も使用します。

既存の美術館については新美術館が開館するまで使用しますが、その後については未定です。

（８）最小限必要な所要室

- **常設展示室**　900m2（3002×3 室）
- **企画展示室**　120m2
- **収蔵庫（２ヶ所）**　400m2
- **売店商品庫**　100m2

（９）活動内容

- **詩画の研究**
- **資料の保管**
- **文章を味わう**
- **講演会等**（50 **名・１室**）
- **作家紹介ビデオの放映**
- **検索型テレビによる東村観光案内**
- **本、絵はがき、カレンダー等販売**
- **詩画を中心とした講座活動**（20 **名・１室**）
- **軽食・喫茶**
- **合唱、コンサート、演奏、テープ等音楽の鑑賞**
- **定期的燻蒸**
- **敷地内の散策**
- **美術館を含めた村の活性化**

1-１２．　事業スケジュール

（１）国際設計競技　２００１年８月～２００２年　２月末

（２）基本設計・実施設計　２００２年２月～２００３年　５月末

（３）建設工事　２００３年７月～２００４年　８月末

（４）準備期間　２００４年９月～２００５年　３月末

（５）開館予定　２００５年４月

1-１３．　応募作品の提出方法等

（1） 応募作品

＊ **A1 サイズ（594?×841?）、横づかい、１０?以内のボード貼り１枚とし、ボードの材質、色等は自由とします。**

＊ **配置図、1/500 の各階平面と断面図を含むものとします。**

＊ **右上隅に登録番号（２cm×5cm の枠内）を明記して下さい。**

＊ **紙質、表現方法は自由とします。**

＊ **使用言語は日本語または英語とします。**

（2） 提出方法

＊ **郵送または宅配便で提出して下さい。**

＊ **応募作品受付期限内に投函し、締め切り当日の消印を有効とします。**

＊ **応募作品受理期限内に必着とします。**

＊ **郵送中の破損、遅延等については応募者の責任とします。**

2-１４．　審査方法

本国際設計競技は二段階審査方式による一般公募型設計競技です。

（1）第１次審査

＊ **審査委員会は第１次審査を行う前に、応募作品を一般公開します。**

＊ **審査は失格要件に抵触する応募作品を除く全作品について対象とします。**

＊ **第１次審査通過作品を入賞作品とし、５点選定します。**

（2） 最終審査

＊ **審査委員会は第１次審査通過作品を一般公開します。**

＊ **最終審査は公開ヒアリングを経て、公開で審査します。**

＊ **最優秀作品１点、優秀作品１点を選出し、その他の作品は佳作となります。**

＊ **審査委員長は最終審査終了後、速やかに東村長に報告すると共に審査結果を公表します。**

2-１５．　その他

質疑応答

（1） 質疑応答は行いません。

（2）応募者は要項の記述を自由に解釈して作品に反映させるものとします。

第１次審査通過者への経費負担

（１）　最終審査に係る費用として東村職員等の旅費に関する条例に基づき、交通費、宿泊費（１泊)、食費について２名を限度として支給します。
・国内応募者：旅費は応募登録地を起点として算出します。
国外応募者：上記金額に航空券相当額（エコノミークラス）を加算して支給します。（ただし、国内旅費算定起点地は成田国際空港となります。）

著作権等

（１）　著作権は応募者に帰属します。
（２）　著作権あるいは意匠権等に関する公的権利の確保は応募者が自らの責任において行って下さい。

応募作品の取扱い

（１）　応募作品は返却いたしません。
（２）　東村は応募作品を保存、記録し、図録等により公表する権利を持つものとします。
（３）　東村が公表等する場合、作品の使用料は無償とします。
（４）　作品を公表する場合すべて記名となります。
（５）　応募作品は富弘美術館や各地の詩画展等の中で展示される可能性があります。
（６）　国際設計競技終了後、審査報告書または応募作品集を作り公表する可能性がありま
す。

最優秀作品等の取扱い
（１）　最優秀者には特定された設計者として、東村と随意契約する第１交渉権があります。
（２）　最優秀者と東村が設計契約条件等で合意に至らなかった場合、あるいは最優秀作品が失格要件に抵触し失格することが後日判明した場合は、その者との契約を結ばず、もしくは破棄して、優秀作品の設計者と契約の交渉を行うことになります。
（３）　同様にして、優秀作品の者と契約に至らない場合は佳作作品の設計者の中

から設計契約の相手方を選出することになります。

（４）　基本設計あるいは実施設計の段階で特定された設計者の同意のもと、設計内容の一部の変更を求める場合があります。

特定された設計者の責務

国際設計競技により特定された設計者は、東村と随意契約の上、「東村立新富弘美術館」の基本設計・実施設計及び工事監理の業務を実施するものとします。

設計報酬

* 基本設計、実施設計、工事常駐監理の経費として８０，０００，０００円を支払います。
* 国外の設計者については特別経費として上記経費に１０，０００，０００円を上限として支払います。

失格要件

（１）　未登録者は応募できません。

（２）　応募登録、応募作品が提出期限を過ぎて提出された場合は失格となります。

（３）　応募登録、応募作品が定められた仕様に違反している場合は失格となります。

（４）　応募作品に記名又は応募者が特定できるようなサイン等が記入されている場合、あるいは第１次審査以前に応募作品の者を特定するような行為を行った場合は失格となります。

（５）　応募作品が第３者の著作権、意匠権等を侵害している場合は失格となります。

上記事項について、後日判明した場合においても失格となります。

２．　詩画作家　星野富弘プロフィール

この章は、詩画作家、星野富弘のプロフィールである。

2-1．　略歴

1946 年	群馬県勢多郡東村神戸に生まれる。
1970 年	群馬大学卒業。中学校の教諭になるがクラブ活動の指導中頸髄を損傷、手足の自由を失う。
1972 年	群馬大学病院入院中、口に筆をくわえて字や絵を書き始める。
1974 年	聖書に出合い洗礼を受ける。
1979 年	前橋で初の作品展。退院。
1981 年	結婚。
1982 年～90 年	全国各都市で開かれた詩画展は、大きな感動を呼び、入場者は 100 万人を超え、現在も全国各地で開催されている。
1991 年	東村立富弘美術館開館。ブラジル各都市でリトグラフ作品を中心に花の詩画展開催。
1994 年	ニューヨークで花の詩画展開催。
1997 年	ハワイで花の詩画展開催。
2000 年	富弘美術館入館者 350 万人を超える。

2-2．　書籍・文献一覧

(1) 立風書房　「愛、深き淵より。(手記)」
(2) 立風書房　「(英) Love From the Depths. The story of TOMIHIRO HOSHINO. 」
(3) 立風書房　「風の旅（詩画集)」
(4) 立風書房　「(英) JOUNEY OF THE WIND.」
(5) 立風書房　「新版　愛、深き淵より。(手記)」
(6) 偕成社　「鈴の鳴る道（詩画集)」
(7) 偕成社　「(英) ROAD　OF　THE　TINKLING　BELL.」
(8) 偕成社　「かぎりなくやさしい花々（手記)」
(9) 偕成社　「(英) HERE SO CLOSE BUT I DIDN'T KNOW.」
(10)偕成社　「あなたの手のひら」
(11)偕成社　「(英) IN THE PLAMS OF YOUR HANDS.」
(12)いのちのことば社　「銀色のあしあと（故 三浦綾子氏との対談集)」

2-3． 主な作品

きく（１９７７）
たんぽぽ（１９８０）
やぶかんそう（１９８０）
ねこやなぎ（１９８２）
沈丁花（１９８５）

３．　現富弘美術館について

この章は、現在の富弘美術館の概要である。

3-1．　美術館のあゆみ

１９９０年　美術館準備室発足,富弘美術館を囲む会、ポスター・チラシを全国へ配布
１９９１年 5月１２日　東村立富弘美術館開館（2,803 名入館者）
8月～9月　第１回企画展「彩花」開催
１９９２年 4月２８日～5月３０日　第２回企画展「開館一周年記念企画展」開催
１９９４年 8月４日　入館者１００万人突破
8月２３日　皇太子ご夫妻行啓訪問
9月 ニューヨーク詩画展を囲む会主催で開催
１９９５年１１月　群馬県経済研究所が行ったアンケート調査の結果、県内の「訪問した観光地のうち、他の人にも勧めてみたい観光地（推奨度)」ナンバーワンに選ばれる。
１９９６年 6月２５日～7月２８日　第３回企画展「開館五周年記念展」開催
１０月２９日　入館者２００万人突破
１９９７年 1月１４日～2月１６日　第４回企画展「９７冬季企画展」開催
１９９８年 1月１３日～2月１５日　第５回企画展「９８冬季企画展」開催
１９９９年 5月4日　入館者３００万人突破
4月２７日～6月１０日第６回企画展「花の詩画集あなたの手のひら企画展」開催
２０００年 8月１９日　１０周年記念事業渡辺和子氏講演会「生きること、死ぬことの大切さ」

3-2．　美術館の現状

東村名誉村民で詩画作家の星野富弘氏の原画、文献、写真などを収蔵する村立の美術館で、1988 年に国が発表した「ふるさと創生」の地域づくり事業として建設した。

（1）当初規模（１９９１年5月１２日当時）

(1)名　　称 ：　　東村立富弘美術館
(2)所 在 地 ：　　群馬県勢多郡東村大字草木８６番地の９
(3)構　　造 ：　　鉄骨コンクリート　２階建
(4)敷地面積 ：　　3030.00m2

(5)延床面積 ： 921.85m2

(6)事 業 費 ： 217,799,000 円

（設計監理費 7,673,500 円含む）

■事業費財源内訳

東村ふるさと創生資金

（地域づくり推進事業債含む） 163,200,000 円

起 債 （過疎債） 30,000,000 円

200,000 円

24,399,000 円

計 217,799,000 円

(7)本館床面積：

１階 608.33m2 （内、展示室 251.18m2）

２階 313.51m2 （内、展示室 216.80m2）

計 921.84m2

(8)工事施工 ：

着工 1990 年 7 月 5 日

完成 1991 年 3 月 30 日

（２）現在規模（平成１９９９年２月１日現在）

(1)敷地面積 ：

当初 3,030.00m2（村有地）

買収 1,748.00m2（1992 年度購入）

現在 4,778.00m2（村有林を含めると 5,726.00m2）

(2)本館床面積：

当初 921.84m2

増築 181.43m2 （1995 年度増築）

現在 1,103.27m2 （１階 789.76m2 ２階 313.51m2）

(3)休憩所面積：

増築 72.04m2 （1991 年度増築）

現在 72.04m2

(4)水洗トイレ数

当初 館内－大 7 ・小 5 ・障 1

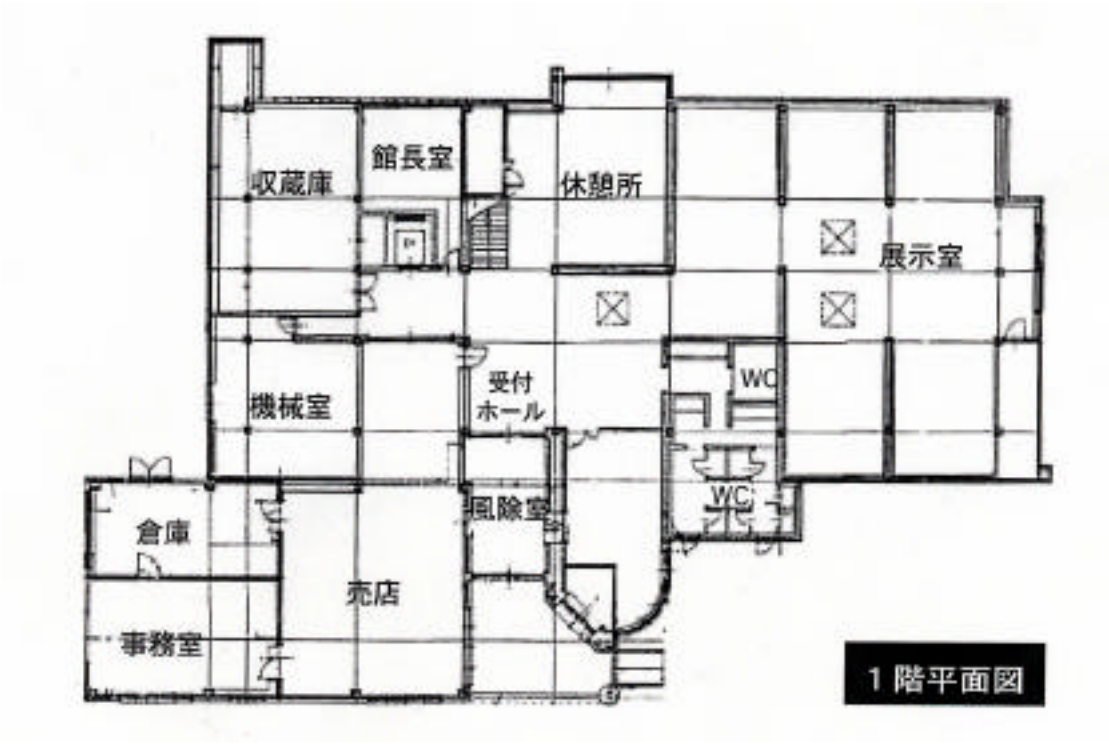
増設 館外－大 13 ・小 10 （1995 年度）

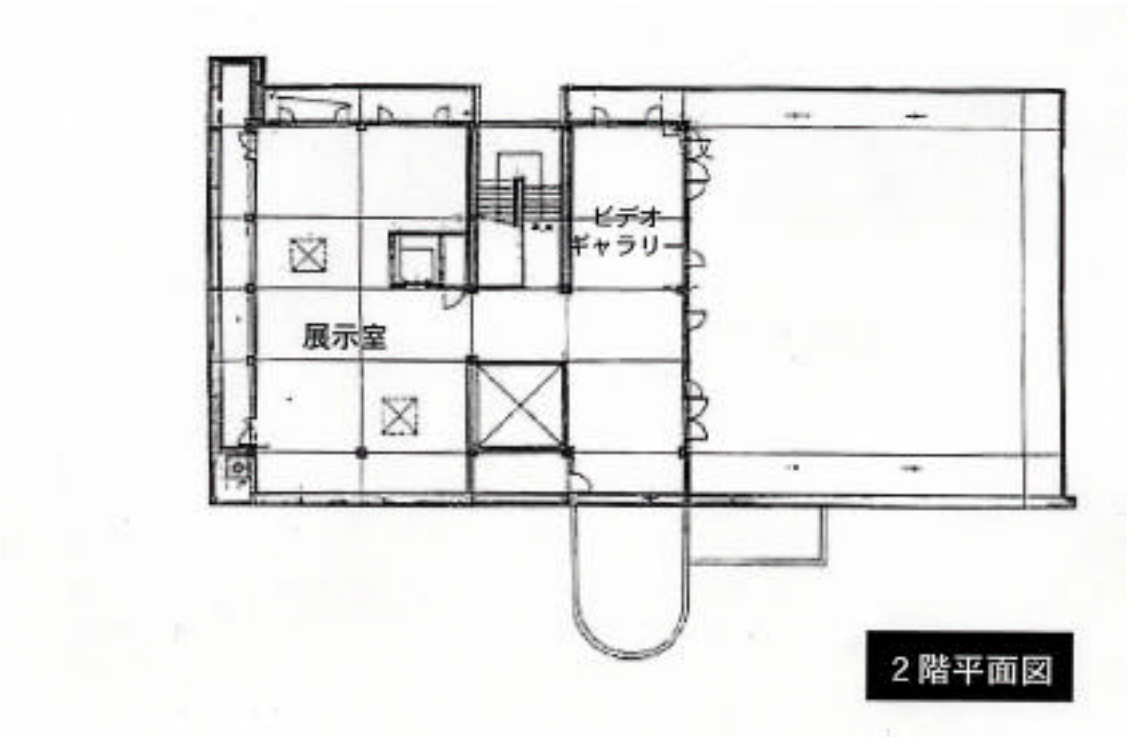
現在 館内－大 7 ・小 5 ・障 1／館外－大 13 ・小 10 ・障 1

(5)駐 車 場

現在 76 台・バス 18 台

現富弘美術館平面図


収蔵庫
館長室
休憩所
展示室
機械室
受付
ホール
WC
WC
倉庫
風除室
売店
事務室
1階平面図


ビデオ
ギャラリー
展示室
2階平面図

3-3．　入館者の推移

以下の表は、平成３年度から平成１０年度までの入館者の推移の表である。

平成3年度							
大人個人	大人団体	子供個人	子供団体	招待者等	合　　計	開館日数	１日当り
180579	47841	18807	9465	2429	259121 人	275 日	942 人
70%	18%	7%	4%	1%	100%		

平成4年度							
大人個人	大人団体	子供個人	子供団体	招待者等	合　　計	開館日数	１日当り
197495	73226	20967	11653	2620	306001 人	311 日	983 人
64%	24%	7%	4%	1%	100%		

平成5年度							
大人個人	大人団体	子供個人	子供団体	招待者等	合　　計	開館日数	１日当り
194194	77772	19166	13181	1859	306172 人	304 日	1007 人
64%	25%	6%	4%	1%	100%		

平成6年度							
大人個人	大人団体	子供個人	子供団体	招待者等	合　　計	開館日数	１日当り
257060	113652	21985	13226	864	406797 人	304 日	1338 人
64%	28%	5%	3%	%	100%		

平成7年度							
大人個人	大人団体	子供個人	子供団体	招待者等	合　　計	開館日数	１日当り
234002	153665	19224	15278	1720	423889 人	307 日	1380 人
55%	36%	5%	3%	%	100%		

平成8年度							
大人個人	大人団体	子供個人	子供団体	招待者等	合　　計	開館日数	１日当り
228228	171385	18888	19135	2206	439842 人	304 日	1446 人
52%	39%	4%	4%	1%	100%		

平成9年度							
大人個人	大人団体	子供個人	子供団体	招待者等	合　　計	開館日数	１日当り
212476	175820	15378	21642	1379	462695 人	308 日	1385 人
50%	41%	4%	5%	%	100%		

平成10年度							
大人個人	大人団体	子供個人	子供団体	招待者等	合　　計	開館日数	１日当り
168278	164571	10467	22422	1323	367070 人	261 日	1406 人
46%	15%	3%	6%	%	100%		

開館から平成11年度までの累計							
大人個人	大人団体	子供個人	子供団体	招待者等	合　　計	開館日数	１日当り
1672321	977972	144882	126012	14400	2935587 人	2374 日	1236 人
57%	33%	5%	4%	1%	100%		

3 - 4． 美術館来館者時間帯別入館調べ（団体及び個人）

以下の表は、1995 年度から 1998 年度までの美術館来館者時間帯別入館数の表である。

1995 年度 10 月					
（1）春：4月～6月（3ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
4月					
5月					
6月					
計					
（2）夏：7月～9月（3ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
7月					
8月					
9月					
計					
（3）秋：１０月～１１月（2ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
１０月	9556	10479	15122	5126	40283
１１月	14615	18931	29250	7668	70464
計	24171	29410	44372	12794	110747
（4）冬：１２月～3月（4ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
１２月	1798	3939	4174	900	10811
1月	1366	3320	4952	1020	10658
2月	1742	2918	4241	1232	10133
3月	3416	6074	9848	2568	21906
計	8322	16251	23215	5720	53508
合計	32493	45661	67587	18514	164255

1996 年度					
（1）春：4月～6月（3ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
4月	6282	7716	11397	3639	29034
5月	12736	12720	15318	5538	46312
6月	10416	11176	17543	4434	43569
計	29434	31612	44258	13611	118915
（2）夏：7月～9月（3ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
7月	7874	8938	10313	3176	29911
8月	13229	15486	16251	6458	51424
9月	9609	10017	11564	3814	35064
計	30322	34501	38128	13488	116399
（3）秋：１０月～１１月（2ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
１０月	11704	15598	20259	5651	53482
１１月	15531	16590	29098	7708	68927
計	27235	32188	49627	13359	122409
（4）冬：１２月～3月（4ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
１２月	3017	3969	4392	833	12211
1月	1287	2313	2637	659	6896
2月	1957	2711	3684	815	9167
3月	5327	7327	10211	1743	2604
計	11588	16320	20924	4050	52882
合計	98579	114621	152937	44468	410605

1997 年度					
（1）春：4月～6月（3ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
4月	5668	7308	13264	3281	29521
5月	11478	12247	14113	4289	42127
6月	10859	10100	15718	4571	41248
計	28005	29655	43095	12141	112896
（2）夏：7月～9月（3ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
7月	8068	8353	10987	3651	31059
8月	11652	13433	14632	5674	45391
9月	8339	9188	12463	3470	33460
計	28059	30974	38082	12795	109910
（3）秋：１０月～１１月（2ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
１０月	17363	18279	25002	7811	68455
１１月	15514	19472	28134	10556	73676
計	32877	37751	53136	18367	142131
（4）冬：１２月～3月（4ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
１２月	2339	2779	4821	930	10869
1月	776	1619	1701	359	4455
2月	2051	2727	3037	1189	9004
3月	4191	6269	7379	2634	20473
計	9357	13394	16938	5112	44801
合計	98298	121774	151251	48415	409738

1998 年度					
（1）春：4月～6月（3ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
4月	12690	10936	15061	4196	42883
5月	6097	7293	13376	4256	31022
6月	7952	9050	15480	4259	36741
計	26739	27279	43917	12711	110646
（2）夏：7月～9月（3ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
7月	6993	8271	9899	2849	28012
8月	8435	10942	11474	4740	35591
9月	6779	8599	13581	2225	31184
計	22207	27812	34954	9814	94787
（3）秋：１０月～１１月（2ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
１０月	12479	13964	24758	6706	57907
１１月	13601	18700	32769	10326	75396
計	26080	32664	57527	17032	133303
（4）冬：１２月～3月（4ヶ月分）					
	9時～１１時	１１時～1時	1時～3時	3時～5時	計
１２月	2344	2954	5739	655	11692
1月	1116	1673	3310	630	6729
2月	-	-	-	-	-
3月	-	-	-	-	-
計	3460	4627	9049	1285	18421
合計	78486	92382	145447	40842	357157

3-5．　美術館の運営

１．基本的な運営システム

(1)開館時間　　午前９時～午後５時（入館は午後４時３０分まで）

(2)休館日　月曜日（ただし、祝日と重なる場合は開館　翌日は休館）

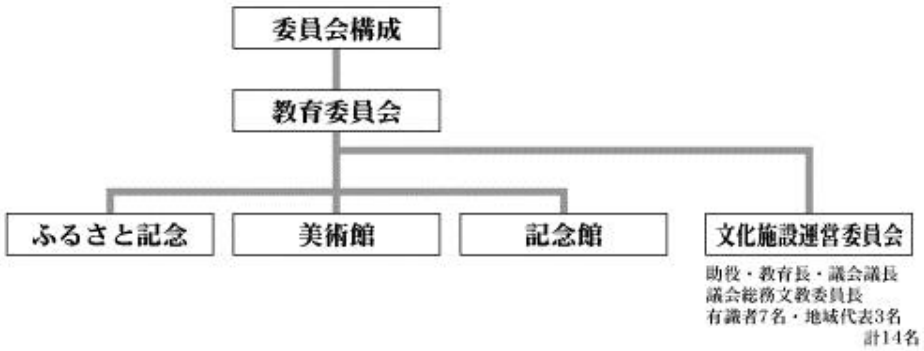
２月の第３月・火・水

年末年始　１２月２８日～１月４日

(3)入館料　大人３００円　小中学生２００円　幼児無料

団体（２０名以上）は２割引

２．組織



３．職員体制（1999 年２月１日）

(1)職員　　３人（男２、女１）

(2)嘱託　　５人（男１、女４）

(3)パート　６人（男１、女５）

計　　１４人

＊繁忙期についてはアルバイト採用。

トイレ等の清掃作業など外仕事はシルバー人材センター委託

４．職務内容

(1)館長　　館の統括、村当局と作者との調整、富弘美術館を囲む会との連携

(2)次長　　館長補佐

(3)学芸員　作品管理、展示、作者との打合せ、調査研究、教育普及他

(4)庶務　　会計事務、団体予約受付、売店商品等の管理、電話案内他

(5)受付　　チケット販売、入館者数カウント、団体予約者翌日の準備他

(6)案内　　館内外施設及び観光案内、列車・バス等の時刻案内、館内見回り、チケット集計他

(7)生け花　館内の生け花

(8)販売　　書籍類等の販売他

(9)清掃　　館内外の清掃、雑務

3-6．　現状の問題点・課題

１．本館について

（展示室）

(1)入り口付近が狭いため車椅子の人がすれ違うのに大変。

(2)順路がわかりにくい。

(3)混雑時換気が必要。（体臭・化粧品・トイレの臭い・・）

(4)何百人も入るため二階の床が抜けるのではないか心配。（人の動きで床が揺れることがある。）

(5)狭いために一枚の絵に集中できず人に押されて移動する状態の時がある。

(6)収蔵庫と機械室が隣り合わせのため火災になった時の事を考えると心配、夜間の空調を最悪の時以外は止めざるを得ない。（本来、展示室は昼夜一定の温・湿度を保たなければならない。）

(7)空調の能力が低すぎる。

(8)できれば展示室に監視員が常時いられる態勢がとれるとよい。

(9)改築館のため壁面構成がうまくいってない。

(10)雨漏りがある。

(11)導線の交差部分があり一方向性ができない。

(12)スポットライトが作品に近すぎる。（天井が低いことと壁面にスポットライトの線が寄りすぎている。）

(13)二階展示室の柱は困る。

(14)壁面を工夫して出来ればワイヤーなしにしたい。キャプション貼りも壁を傷めずに出来ると良い。

(15)エントランスホールの壁の文字を見ている人の前を通って２階へ進むような順路になってしまう。

(16)２階の展示室に気づかずに帰ってしまう人がいる。

(17)混雑時展示室内の椅子に掛けて会話をする人がいる。他の人の迷惑になる場合もある。

（売店）

(1)レジとレジの間が狭い。
(2)並んでいる方の横から割り込む人がいる。
(3)見本と販売品の場所がわかりずらい。
(4)混雑時の商品の補充が大変。
(5)コンビニ方式で商品倉庫から直接品出しが出来ると良い。
(6)レジへの順番待ちがわかりにくい。
(7)売店は別館、或いは出入口を別にした方がよい。
(8)オリジナル商品が欲しい

（チケット販売）

(1)販売窓口が１カ所のため混雑時に混乱する。（団体と個人が一緒だと大混雑の時団体優先になりがちである。）
(2)団体の人が入口にたまり販売場所が混雑する。
(3)チケットを先に渡して入場料を払うのを忘れてしまう添乗員がいる。
(4)外への出入口があると便利。
(5)前売りは対処しにくい。
(6)団体と個人チケットの色分けをした方がよい。

（出入口～ホール（玄関）　）

(1)入口と出口が同じ場所のため狭い。団体が入館すると帰りたい人が出られない状態になってしまう。（出入口は別がよい。）
(2)混雑時、売店の出口から館内へ入館してしまう人がいる。
(3)雨天の場合のみ傘立てをだすがその分スペースが狭くなってしまう。
(4)雨天の場合などバスを待つ人で混雑してチケットの購入が出来ない。
(5)風除室にコインロッカーがあるため混雑時じゃまになる。（また利用者がいると自動ドアが開いたままになってしまう。ロッカー室は別室が望ましい。）

（事務室　）

(1)添乗員さんにファクスを頼まれる事が多い。
(2)狭い。
(3)接客室と事務所の仕切がある方がよい。（お金を計算する場合など。）
(4)電話の音（話し声）が漏れないように防音にした方がよい。

（ビデオルーム　）

(1)場所が狭く座席数も少ない。
(2)画面が光ってみにくい。
(3)車椅子の人が見るためのスペースがない。
(4)吹き抜けになっているため人の声でビデオの音声が聞きづらい、反対にビデオの音声で作品に集中できない。

(5)映画館のように一室つくり大画面にしたほうがよい。
(6)ビデオの放映時間をもう少し短めにした方がよい。（特に団体客）
（トイレ（館内：来館者の約７割りが使用）　）
(1)狭い、臭う、数が少ない
(2)ベビーベッドがない（おむつを取り替える場合）
(3)外トイレに行くのに雨の日は屋根があると良い。
(4)二階にトイレがないため足の不自由な人やお年寄りがかわいそう。
(5)男女１つの入口に抵抗のある方もいる。
(6)場所がわかりにくく、いつもどこですか？と聴かれる。
（インフォメーション（案内）　）
(1)二階から物（パンフレット）が落ちてくることがある。
(2)混雑時には緊急避難的な措置としてチケット販売所でモギリまで済ませることがある。
(3)昼時などチケットのモギリが出来ないこともある。
(4)団体の入館時間が重なるとモギリに集中するためインフォメーションの仕事が出来なくなる。
(5)再入館の人が多く、チケットを見せてくれない人、半券を切ってあるか見極めが難しい。
(6)秋などの混雑時はボランティアがチケットのモギリを手伝ってくれるので非常に助かる。
(7)トイレ、売店、裏庭への行きかたがわからなく一日に何度も聴かれる。
(8)濡れた傘の持ち込みを断わるのが大変。
(9)狭くて物が整頓しづらい。
(10)団体の場合館内の注意事項が伝わりにくい。
(11)モギリ場所とインフォメーションはもっと離れた方が良い。（フロントを広く）
(12)酒気帯びの人の対処が必要である。
（階段）
(1)幅が狭い。
(2)混んでいるときすれ違いが大変。
(3)足音が響いてうるさい。
(4)車椅子の人を考えスロープにした方がよい。（せっかく踊り場から見る景色が良いのに車椅子の人には見ることができない。）
（ロビー ）
㈰裏庭へ直接出てしまう人がいる。
㈪休んでいる人の話声が大きいと展示室まで聴こえてしまう。
㈫ロビーから送迎バスが見えないので、団体はロビーでなくインフォメーションの前でたまってしまう。
（休憩室（スタッフ用））

(1)声が漏れてしまう。(防音にしてほしい。)

(2)冬はすごく寒い。(ストーブをたいても。)

(3)インフォメーション、売店の様子がわかれば混雑時手伝いに行きやすい。

(4)展示室のない階にあったほうがよい。

(その他)

(1)車椅子の台数を増やした方がよい。

(2)喫茶コーナーの要望がある。

(3)障害者用の駐車スペースに雨よけ(屋根)がない。

(4)ペットの預かり場所がほしい。

(5)資料室及び資料研究室がない。

(6)会議室・活動ルームがあると良い。

(7)特別展・企画展室があると良い。

(8)保健室があると良い。

(9)エレベーターをもう少し広くした方がよい。

(10)鍵付きの傘立てがほしい。

(11)障害者用のトイレまたは洋式のトイレをもっと増やした方がよい。

(12)受付、インフォメーションにて注意事項を口頭で説明しているが、口うるさい印象を与える。

(13)焼却炉をなくしてゴミで出すように考えた方がよい。(環境にもやさしい美術館)

(14)段ボールはリサイクルできるシステムにした方がよい。

(15)薫蒸室があると良い。

２．駐車場について

(駐車台数)

(1)障害者用駐車場は外トイレに一番近いところにつくるべき。

(2)ゴールデンウィーク及び秋の観光シーズンは隣接地を臨時駐車場に借りても不足する。

(3)夏休み期間は臨時駐車場を使っている。

(4)１２月から１月までの平日は敷地内駐車場で足りている。

(5)１団体で２・３台もしくは、学校団体は５・６台バスが続いて来館するケースが多く、そのため乗用車とバスで本館前と国道が混雑してしまう。(乗用車とバスは区分したほうがよい。)

３．館周辺

(危険個所等)

(1)国道上で美術館に入ろうとする車が急停車等するので後続の車が急ブレーキをかけている。

(2)路線バス利用者が国道横断する際道路が直線のため、かなり飛ばしている車もあるので心配。

(3)館前の駐車場内で記念撮影している人も多いので危険。

（ゆとり等）

(1)本館敷地内が駐車場になっているためゆとりが感じられない。

(2)コーヒを飲みたいというお客様が結構多い。（余韻を楽しみたい。）

（案内等）

(1)休館日を知らずに来館する人が多い。

(2)開館時間がわかりにくい

(3)注意事項等がわかりにくい。

(4)どんな美術館かわからない来館者もいる。

(5)入り口がわかりにくく、通り過ぎてからバックする車がある。

（景観はどうか）

(1)館敷地内くらいは緑化したい。

(2)周辺の美しい景観を取り入れる。

(3)敷地外であっても修景を積極的に考える。

４． 敷地の現状

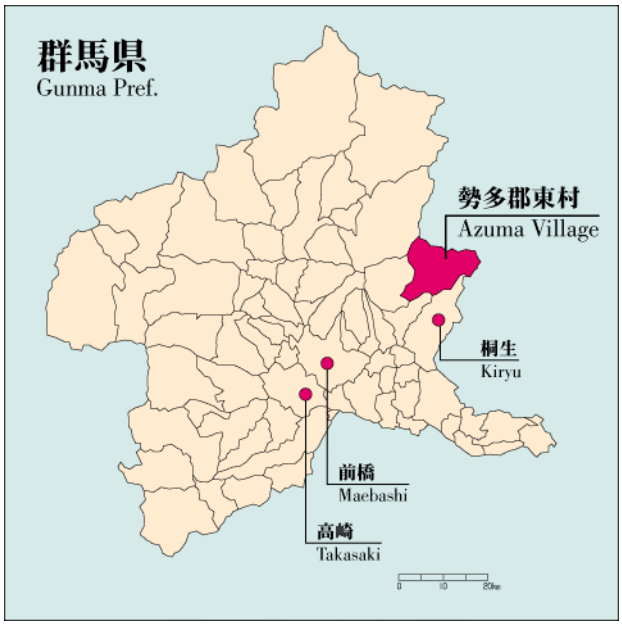
この章では、計画敷地の現状をまとめている。

４-１． 位置

計画地は、群馬県勢多郡東村草木にある草木湖周辺にある。自然豊かな東村は、総面積 141.57ｋ㎡、人口約３５００人の小さな村で、群馬県の東に位置し、栃木県の足尾銅山からの銅を運ぶ宿場町として栄えた。今でも当時の宿場町をしのばせる面影を残している。

昭和５１年に草木ダムが完成してからは、歴史と自然を大切にした観光の村として新たなるスタートをきった。現在では、富弘美術館・童謡ふるさと館・陶器と良寛書の館・わらべ工房などの観光施設や国民宿舎サンレイク草木・黒坂石バンガローテント村・ファミリーオートキャンプ場そうりなどの宿泊関連施設が整っている。

図４-１．位置図



４-２．　気候

東村の気候は、内陸型気候であり、夏は高温となり冬は冷え込みが強くなっている。年平均降水量は大体 1400mm～1900mm と多いことが分かる。積雪量は北部の山岳地帯とは違い、最深積雪平均は２０ｃｍ～４０ｃｍ程度となっており、比較的積雪が少ない地域である。

表 4-2．気象状況

区分／年度	気温（℃）			降水量（mm）	
	平均	最高	最低	総量	月最大
平成２	12.9	35.5	-7.9	1780	429（９月）
3	12.6	35.0	-6.7	1944	562（８月）
4	12.0	34.7	-5.6	1409	231（５月）
5	11.9	31.4	-5.9	1451	264（７月）
6	12.5	34.9	-7.9	1157	410（９月）
7	11.6	34.3	-7.8	1456	305（６月）
8	11.3	36.0	-8.8	873	191（９月）
9	12.1	34.9	-8.8	1539	273（６月）
10	12.6	34.6	-6.8	1964	452（８月）
11	12.5	34.2	-7.6	1733	380（７月）

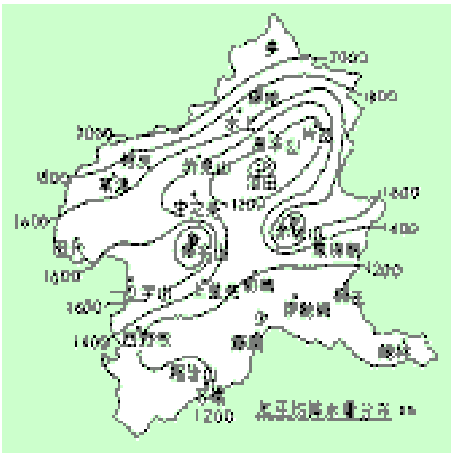


図４-２．気象図

４-３．　周辺施設

計画地は、草木湖の周辺にあるが、その草木湖の周辺には様々な観光施設がある。またその中で、富弘美術館は表４-３の文化施設利用状況からも分かるように中心的施設となっている。

1.草木ダム
2.草木ドライブイン
3.童謡ふるさと館
4.陶器と良寛書の館
5.国民宿舎サンレイク草木
6.ファミリーオートキャンプ場そうり
7.わらべ工房
8.総合運動公園

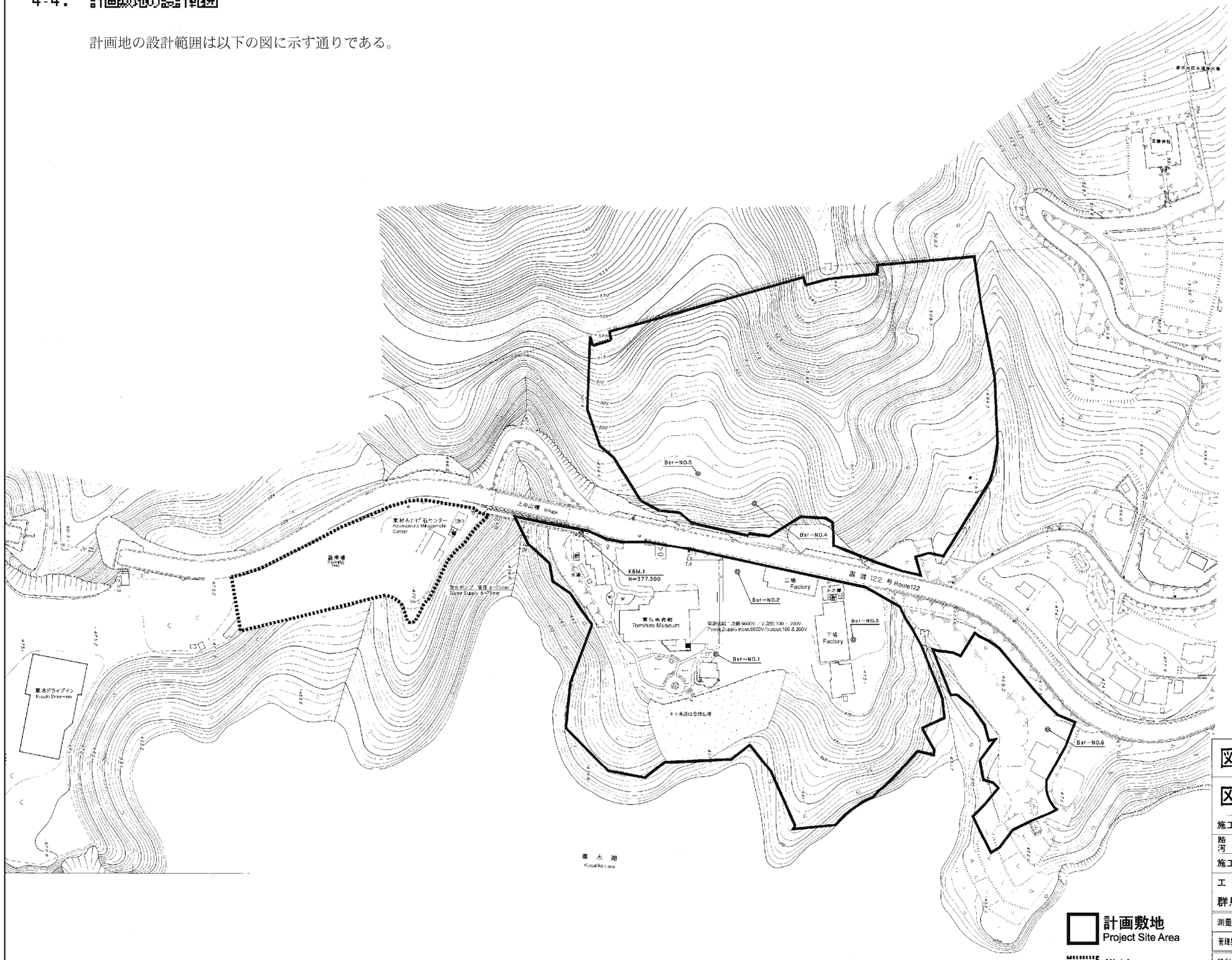
図４-３．草木湖周辺の観光施設

表４-３．文化施設利用状況　　（単位：人）

施設名＼年度	平成６	平成７	平成８	平成９	平成10
童謡ふるさと館	35580	27745	24004	18639	18384
富弘美術館	406797	423889	439842	426695	396466
陶器と良寛書の館	平6.10.3 オープン	7133	6224	6668	7144

4-4. 計画敷地の設計範囲

計画地の設計範囲は以下の図に示す通りである。



図種			
区分		図面番号	No. / 枚中
施工年度	平成　年度	縮　尺	1：1000
路線河川名			
施工箇所	勢多郡東村大字草木地内		
工事名	東村立富弘美術館建設工事		
群馬県	勢多郡東村		
測量会社名			
管理技術者名		測量年月日	
設計会社名			
管理技術者名		設計年月日	
照査	設計	製図	

4－5．　現況写真

以下の写真は、計画地の現況写真である。

（1）航空現況写真

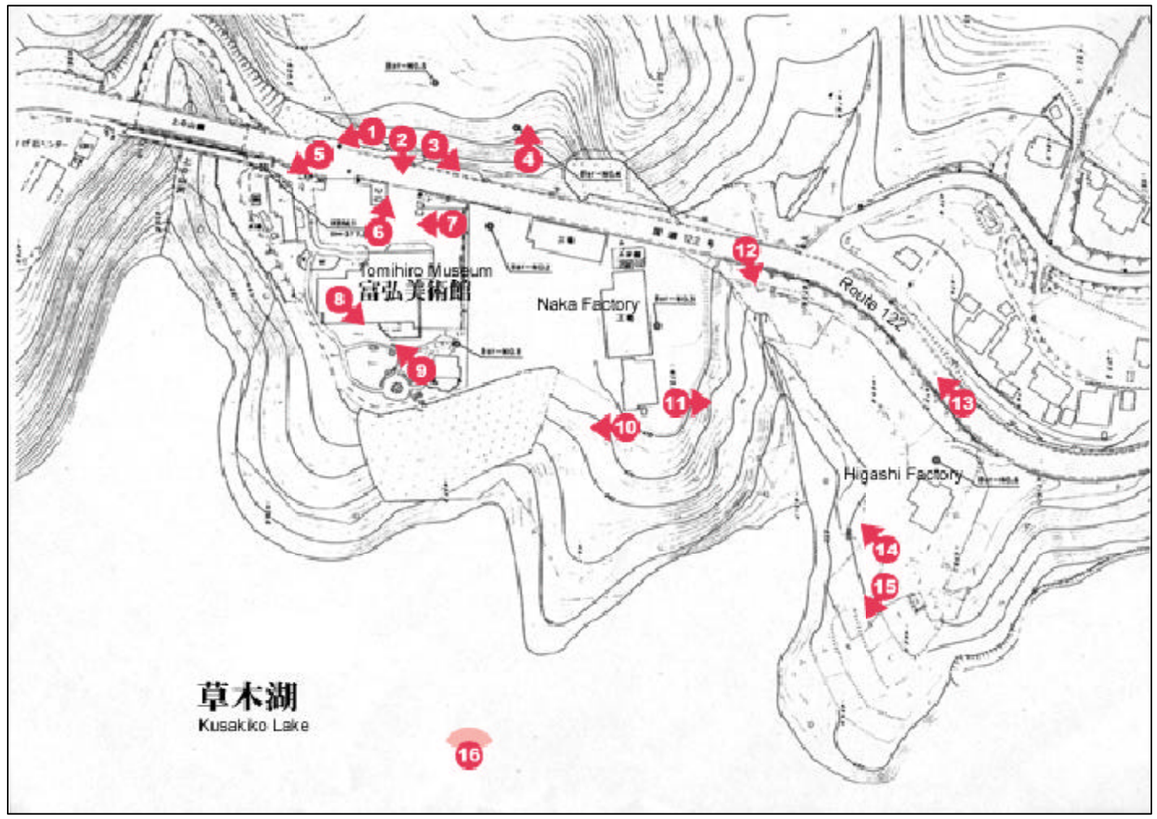
草木ドライブイン周辺

工場跡地周辺

計画地全景

美術館周辺

（２）美術館周辺現況写真1



1. 大間々方面

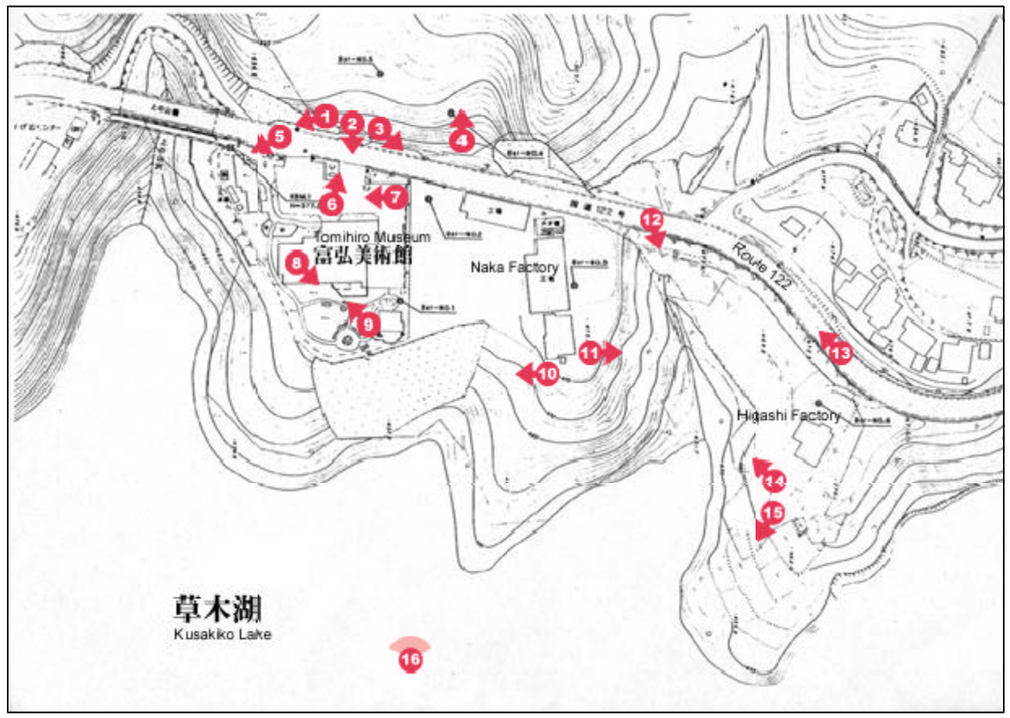
2. 美術館正面

3. 日光方面

4. 計画地内

16. 草木湖からの展望

（３）美術館周辺現況写真2



5. 公衆トイレ&バス停

6. 正面広場

7. 正面広場

8. 2Fテラスから庭を展望

9. 美術館裏（南）

10. 中工場跡地から美術館展望

11. 中工場跡地から東工場跡地展望

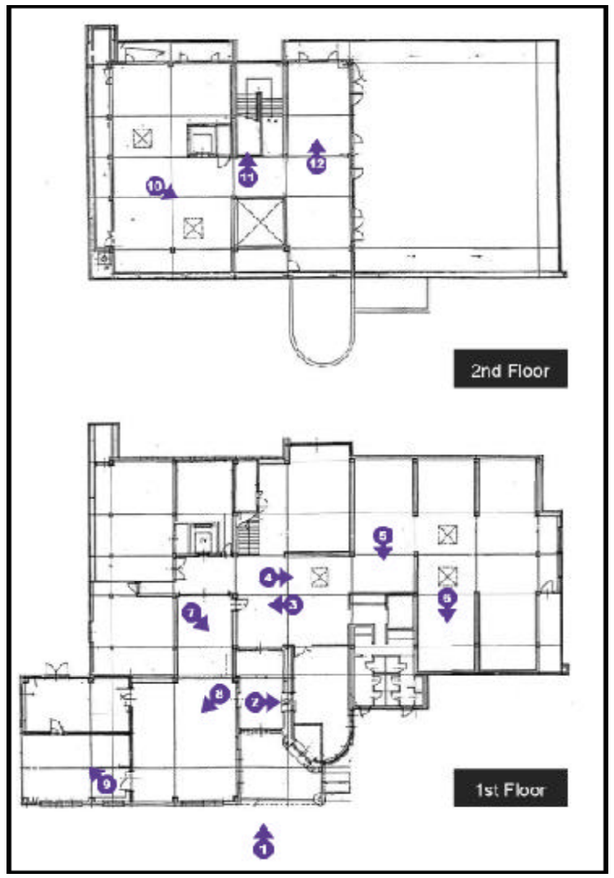
12. 国道から湖展望

13. 国道

14. 東工場跡地から中工場跡地展望

15. 東工場跡地から湖展望

（４）美術館内部現況写真



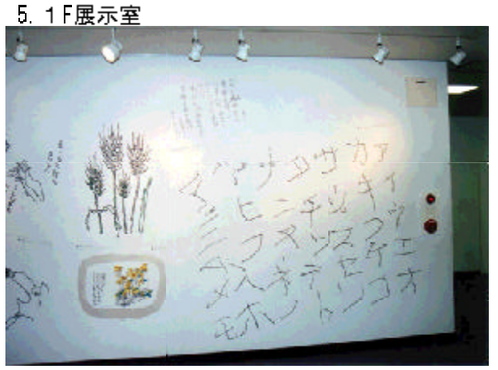
1. １F玄関

2. 風除室

3. カウンター

4. １F展示室

5. １F展示室



6. １F展示室

7. 売店

8. 売店

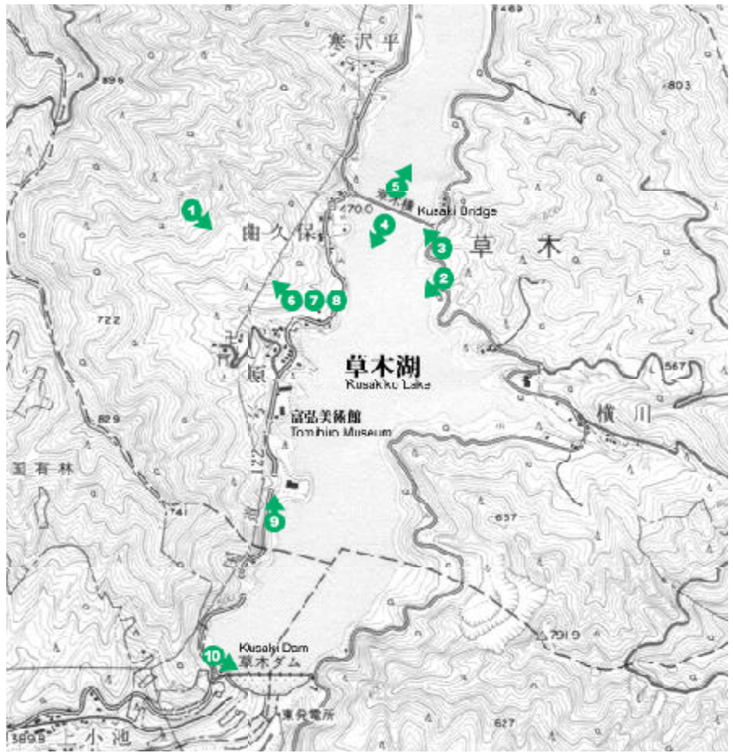
9. 事務室

10. ２F展示室

11. 階段踊り場

12. ビデオコーナー

（５）草木ダム周辺現況写真



1. 草木ダム計画地全景

2. 対岸より美術館を望む

3. 草木橋

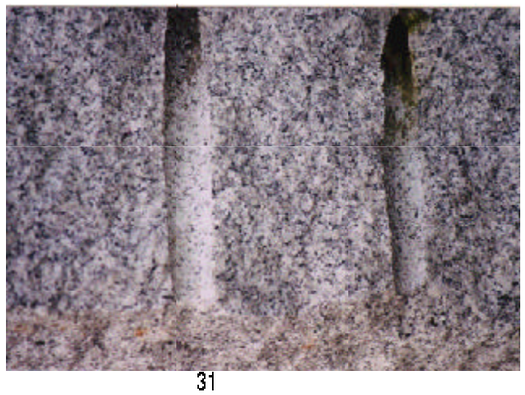
4. 草木橋より美術館を望む

5. 草木橋より上流を望む

6. 石切場風景

7. 東村特産”沢入（そうり）みかげ石”

8. 東村特産”沢入（そうり）みかげ石”拡大



9. トンネル

10. 草木ダム

４-６．　敷地地盤

計画地である現美術館地と工場跡地は、深度２ｍ～５ｍ のところに花崗岩の混じった礫混り砂の硬い地盤があり、比較的良い地盤だと言える。（参考資料参照）

現美術館地は、埋土で土質区分は、礫混り砂である。深度 2m～3.2m のところが相対密度が非常に密になっており、硬い。

中工場跡地は、深度 2m～6m のところに風化花崗岩があり、含水が少なく、マサ土である。相対密度は非常に密で硬くなっている。

東工場跡地は、深度 5.5m～6.3m のところに粘土混じりの礫があり、相対密度は非常に密になっている。含水は中位で、粘性は小さい。

５．　課題の整理

この章では、第２章から第４章までのことをふまえて、課題の整理をしている。

5-1．　設計の方向性

課題を整理していくと次のことが見えてくる。

計画地は、草木湖沿いにあり豊かな自然が多く残る東村にある。そのため、周辺の美しい景観を損ねない美術館としなければならない。また、計画地は、借地を含めると４つの敷地が与えられている。これらの敷地をどう利用していくかも考える必要がある。

星野富弘の詩画は、口語自由詩で誰にでも親しみやすく、分かりやすい詩で書かれ、さらに身近にある草花を一緒に描くことで相乗効果を出している。彼の詩画は、身近にある草花や自然と何気ない日常を詩と画で表現することにより、生きていくことの素晴らしさや健康のありがたさを訴えかけていることが分かる。

また、現美術館の問題点からは、現在の美術館が非常に狭く、詩画をじっくり鑑賞することができない状態にある。その他にも、周りの自然環境とうまく調和できていない、詩画の余韻を楽しむ空間がないなどが挙げられる。

以上のことから、設計の方向性としては、次の方向性を定めた。

・星野富弘の詩画と向き合う事のできる展示空間を提案する。
・詩画作品の展示空間は、作品自体があまり大きい物ではないことと、一つの詩と絵をゆっくり味わう為には、大きな展示空間は必要としないと考える。そこで、展示空間は、１つ１つの詩画作品をじっくり鑑賞することのできる空間（例えば、小さな空間、若しくは展示室内で区切られた空間など）を提案する。
・詩画を鑑賞する美術館とは別に、周りの自然環境を活かした自然を観賞する空間を提案する。
・それら２つの空間を分離したり、融合したりできる空間を提案する。
・管理部門と一般客の動線を利用しやすいように分けるようにする。
・現在ある美術館は新しい美術館ができるまで利用するので、その関係を考える。
・敷地が４つに分かれて設定されているので、外構が有効に利用できるように工夫する。

5-2．　施設の必要諸室面積

ワーキンググループ検討事項（参考資料参照）で挙げられていた必要と考えられる諸室を参考にし、どのような諸室をつくるかを決定した。

計画条件では、床面積は約 3000 ㎡と定められているので、それに基づき各諸室の面積を割り振っていった。また、計画条件に最小限必要な所要室として、常設展示室 900 ㎡（300 ㎡×3 室）、企画展示室 120 ㎡、収蔵庫（２ケ所）400 ㎡、売店収蔵庫 100 ㎡が定められている。事務室、会議室等の管理部門は、一般庁舎算定基準（地方債査定基準）に基づき、算出していった。その他の諸室面積は、規模が 3000 ㎡に近い類似施設の面積を参考にしながら決定していった。以下の表５－２が算定した必要諸室の面積表である。

表5-2．　必要諸室面積表

部門	所要諸室	面積（㎡）	個数	合計面積（㎡）	備考
展示部門	常設展示室	300	3	900	
	企画展示室	120	1	120	
	展示用備品庫	40	1	40	スポットライト、パネル等は収蔵庫に隣接
教養普及部門	講座室	40	1	40	収容人数20人
	図書コーナー	40	1	40	
	ビデオコーナー	40	1	40	
収蔵部門	収蔵庫	200	2	400	常設展示用（前室付）と特別展示・企画展示用
	収蔵庫前室	50	1	50	
	燻蒸室	30	1	30	
	荷解室	60	1	60	
研究部門	資料室・研究室	100	1	100	
管理部門	事務室	55	1	55	職員14人
	事務倉庫	10	1	10	
	館長室	20	1	20	
	会議室	75	1	75	収容人数50人
	更衣室・湯沸室	10	1	10	
	売店商品庫	100	1	100	
	機械室	130	1	130	機械室・空調機械室、電気室、E.V.機械室
共用部門	エントランス等	250	1	250	エントランス、コンコース、風除室、案内検索型テレビ、受付
	軽食、喫茶コーナー	100	1	100	防火上火気使用室は別棟
	音楽コーナー	40	1	40	
	売店	50	1	50	
	階段、廊下等	300	1	300	
	トイレ	35	2	70	
合計				3030	

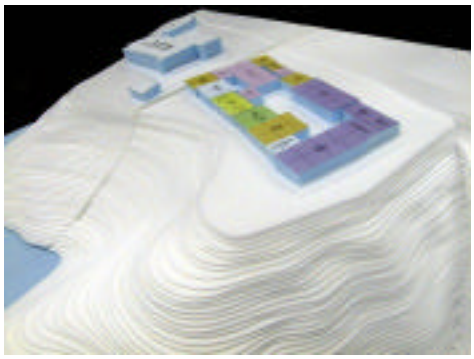
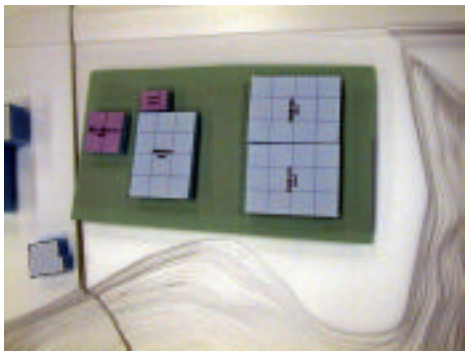
６．　設計過程

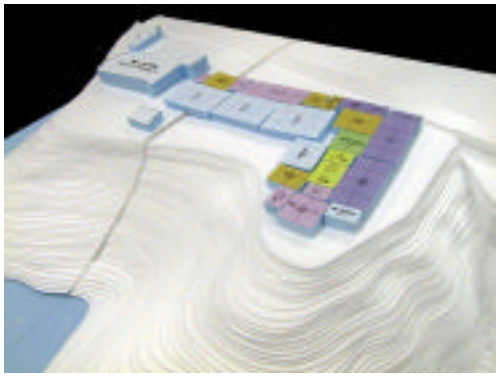
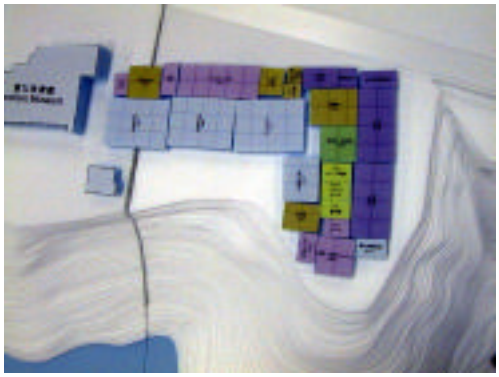
この章では、設計過程をまとめている。

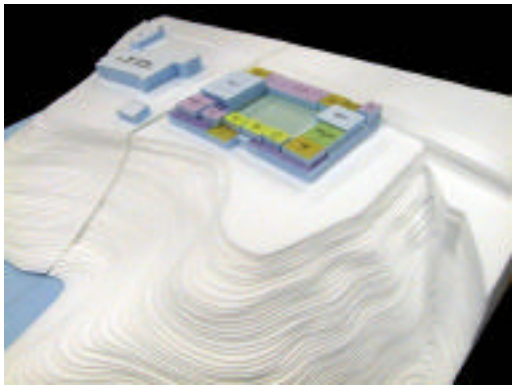
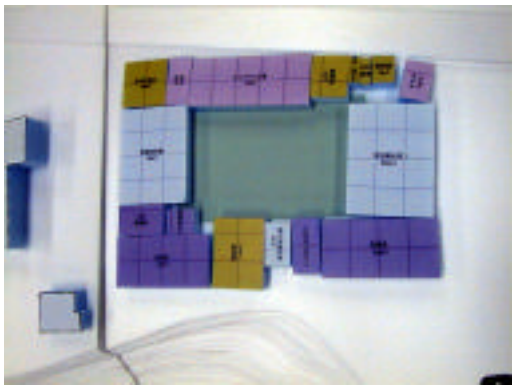
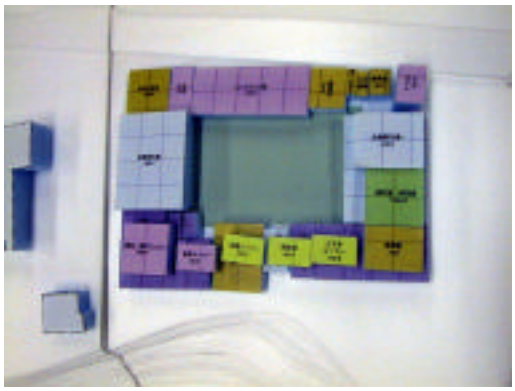
6-1．　第１次案作製（配置パターン）

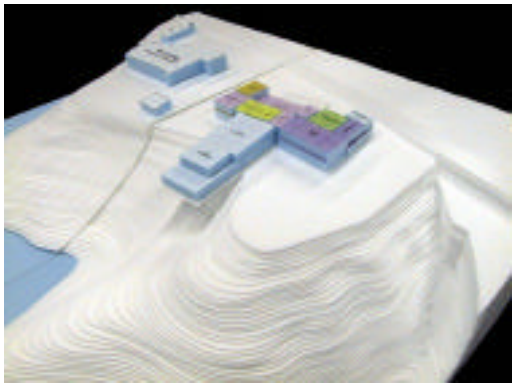
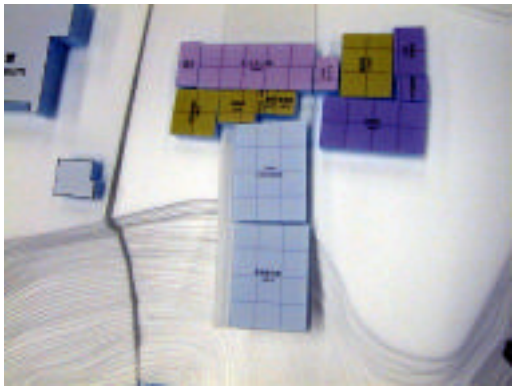
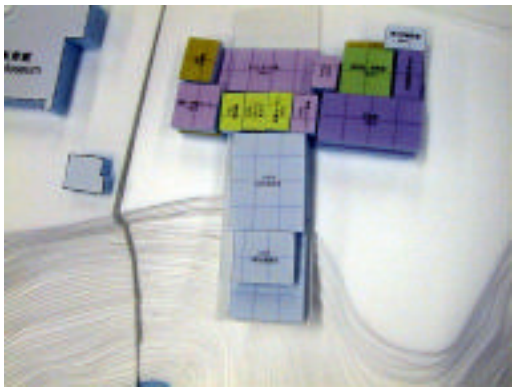
まず始めに、どのような配置が考えられるか、配置パターンのスタディを行った。

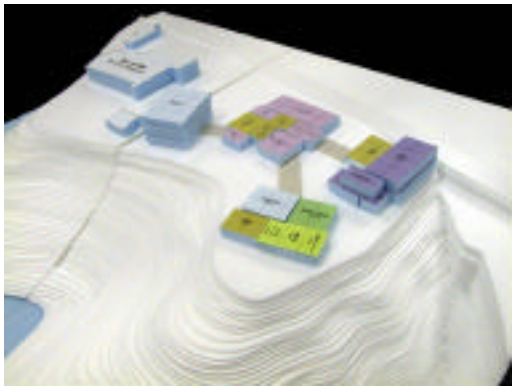
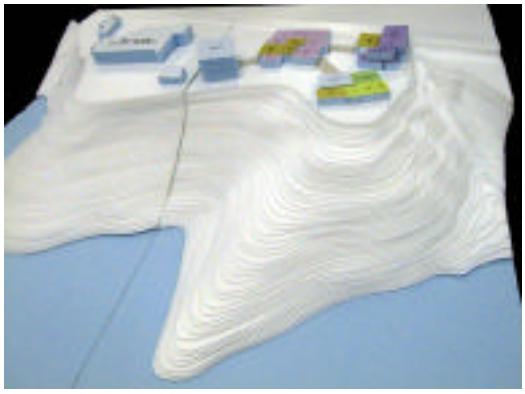
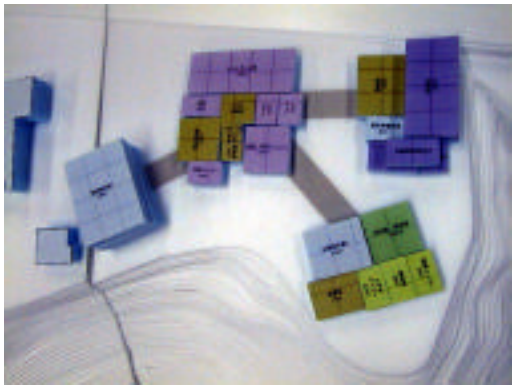
A 案から K 案までの１１案の配置パターンを考えた。

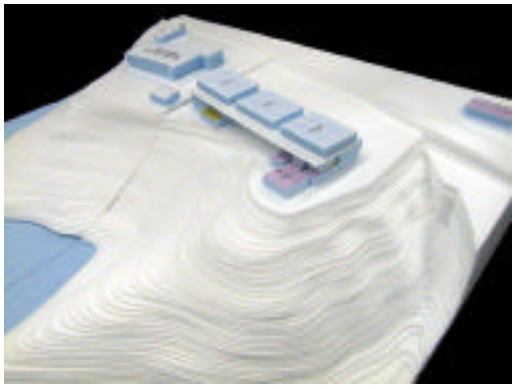
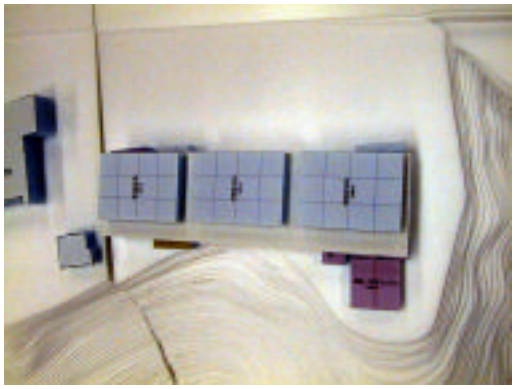
A 案；２階１体型	
模型写真	案の説明
 	**南側にエントランスを設け、管理部門、収蔵部門、研究部門等は１階に配置する。** **２ 階には常設展示室と喫茶コーナーを配置し、庭をつくり、展望できるようにする。**

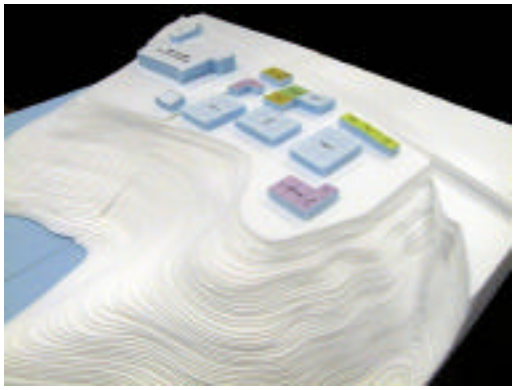
B案；１階Ｌ型	
模型写真	案の説明
 	**エントランスを西側（国道側）に設ける。全てを１階に配置し、L 型にする。** **南側に展示室、北側にその他の機能を配置する。**

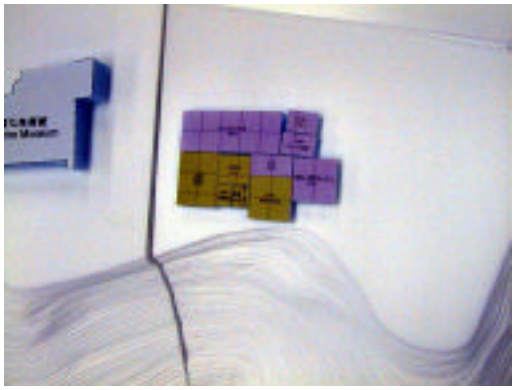
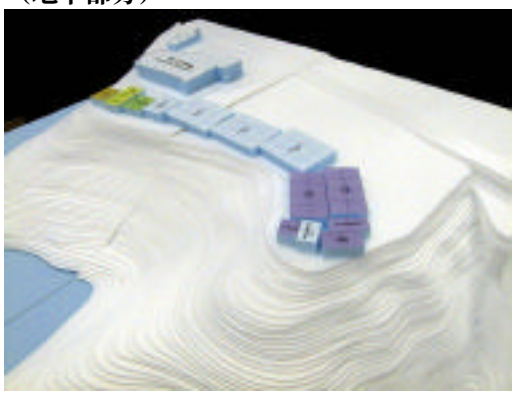
C案；中庭型	
模型写真	案の説明
  	中庭を設け、その周りに展示室等を配置する。中庭側に廊下を設け、エントランスは吹き抜けにする。 １階に、収蔵部門、管理部門と常設展示室 2 つを配置する。2 階にその他の機能と展示室１つを配置する。

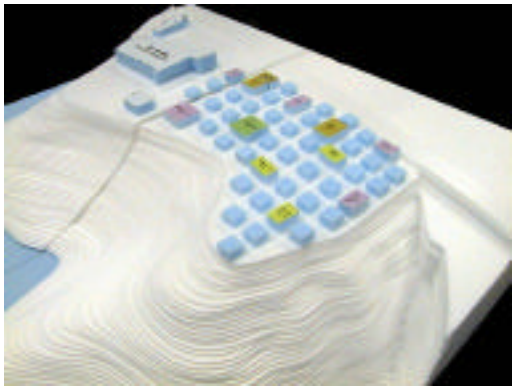
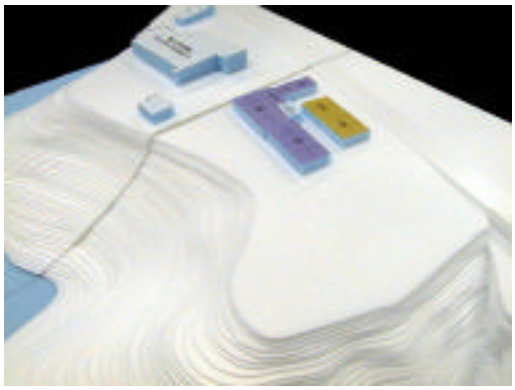
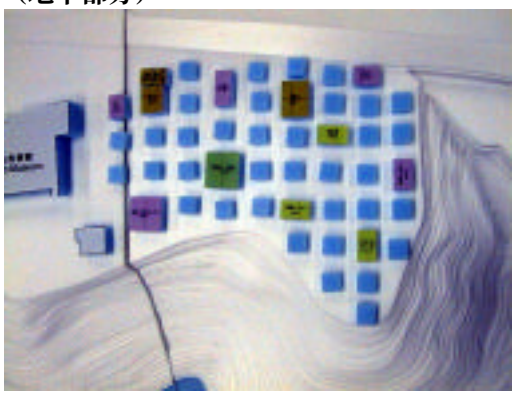
D案；突きだし型	
模型写真	案の説明
  	**建物の一部が湖側に突き出ている。収蔵、管理、共用部門等は、西側に配置し、展示室は湖側に突き出して配置する。**

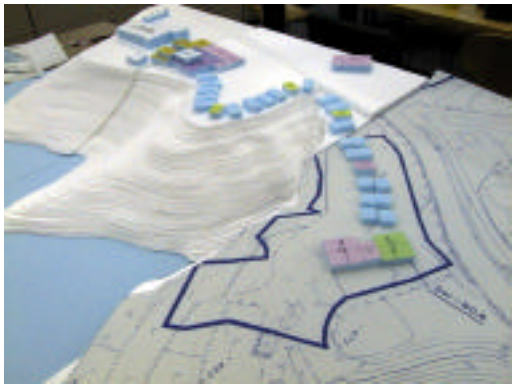
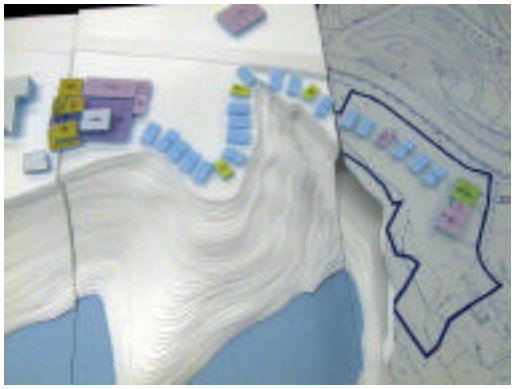
E 案；４棟分離型	
模型写真	案の説明
  	**エントランス等の共用部門を中心に配置し、その他は、収蔵部門、展示部門、研究、教養普及部門と３つに分けて配置する。共用部門からそれぞれの棟へ通路でつなぐ。**

F案；門型	
模型写真	案の説明
  	収蔵部門と共用、研究、教養、管理部門とに２つに分け、それらを１、2 階に配置する。３階に常設展示室を配置し、３階部分で 2 つの棟をつなぐ。

G案；全体分離型	
模型写真	案の説明
 （地下）	全ての機能を別々にして配置する。収蔵部門と機械室等は地下に配置する。

H案；地下型	
模型写真	案の説明
 （地下部分） 	全て地下に配置して、建物をあまり見せないようにする。崖側に沿わせて配置し、崖の中から景色を見せる。エントランスや事務所、売店などがある入口だけ地上に配置する。

I 案；展示分離型	
模型写真	案の説明
  （地下部分） 	展示室を小さい部屋にして、いくつもつくる。その間に、図書コーナー、会議室などを配置する。収蔵部門、機械室等は地下へ配置する。

J案；展示橋型	
模型写真	案の説明
 	**北側の計画地も利用する案。エントランスは中工場跡地に設け、そこから北側の東工場跡地へ展示室を通路のようにしてつなげる。展示室の間に図書コーナーや講座室などを配置していく。**

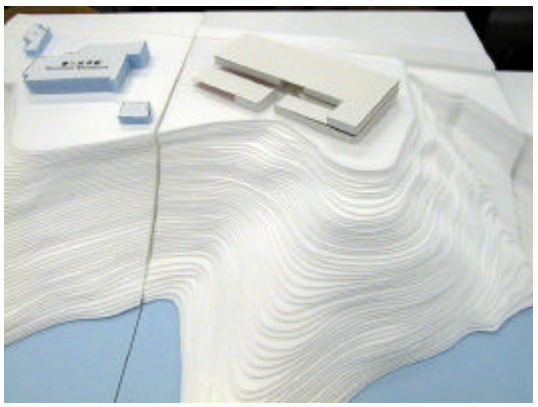
K案；橋型	
模型写真	案の説明
 	中工場跡地と東工場跡地に別々の棟を建て、それを橋でつなぐ。中工場跡地にエントランス、管理部門、研究、教養普及部門などを配置し、東工場跡地には、展示室、収蔵部門を配置する。橋を渡るときに何かできるようにしたい。

「コメント」

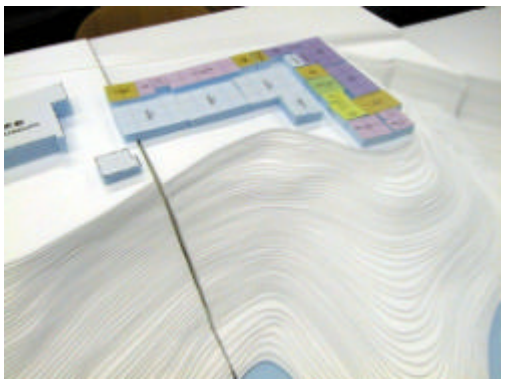
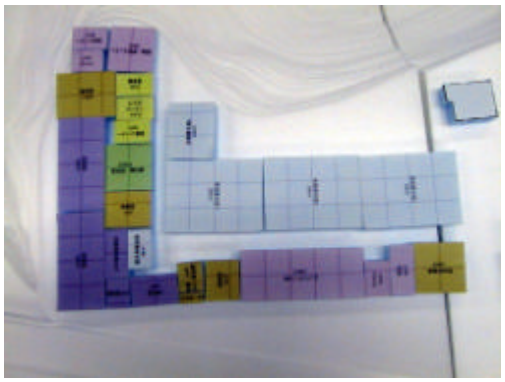
１、２階のプランで良い提案があるといい。それぞれの案の良い点や問題点をもう少しつめていく。F 案は、都会にあるようなプランなのであまりいいとは言えない。１つは標準型で案を進めていくべき。

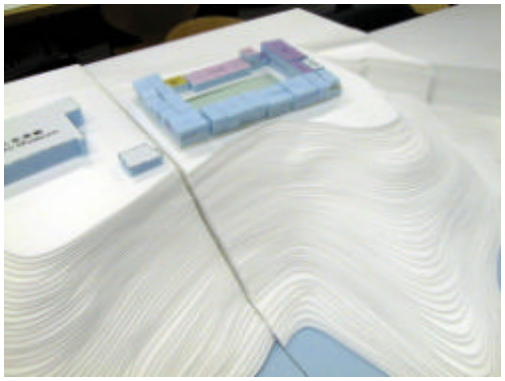
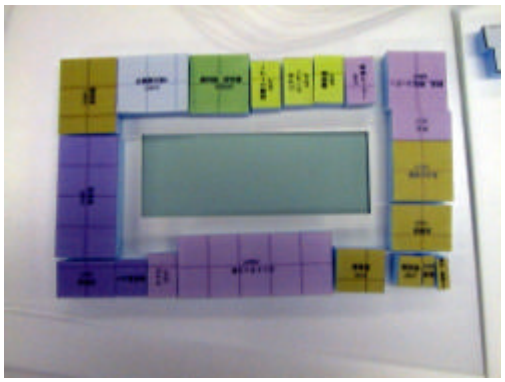
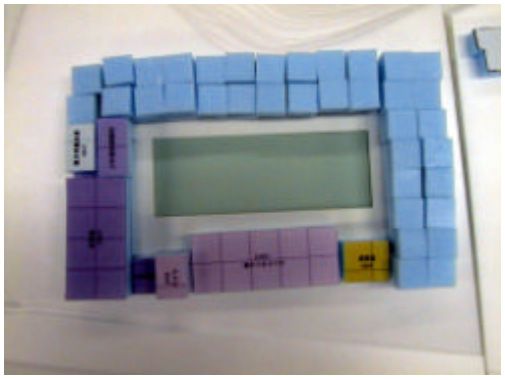
6 - 2 .　第 2 次案作製（良い点・悪い点）

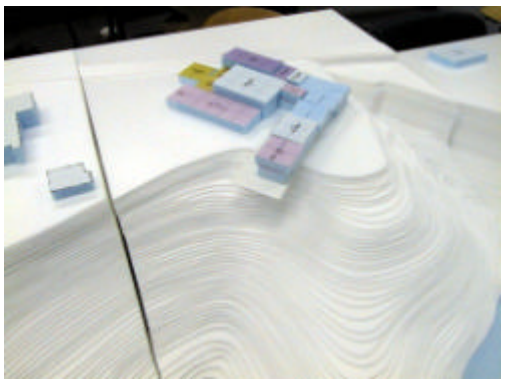
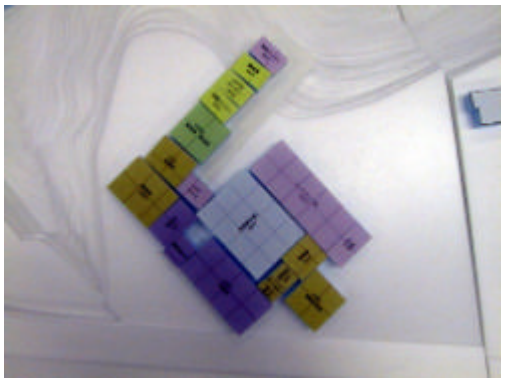
次に、第１次案で考えた１１案をさらに考えながら、それぞれの案の良い点と悪い点を挙げていった。

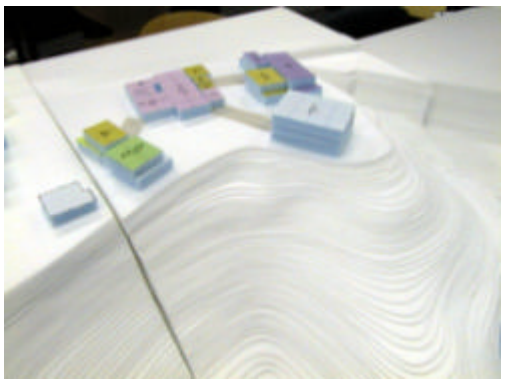
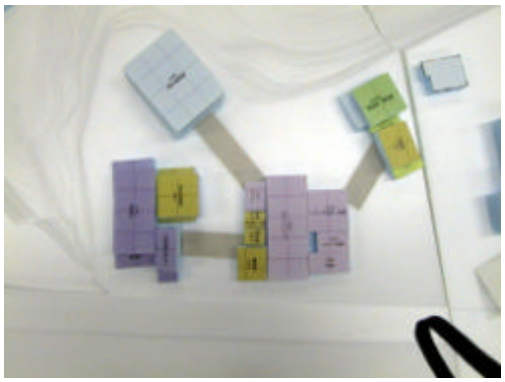
<table>
<tr><td colspan="2">A 案；２階１体型</td></tr>
<tr><td>模型写真</td><td>案の説明</td></tr>
<tr><td rowspan="2"> 
 </td><td>南側にエントランスを設け、管理部門、収蔵部門、研究部門等は１階に配置する。
管理、収蔵部門は西側に配置し、管理用の通路を設け、公開部分と動線を分ける。
2 階は、常設展示室を配置する。喫茶コーナー、売店は外通路を挟んで別棟にする。
全体としては屋根で繋がっているので一体となる。</td></tr>
<tr><td>良い点・悪い点

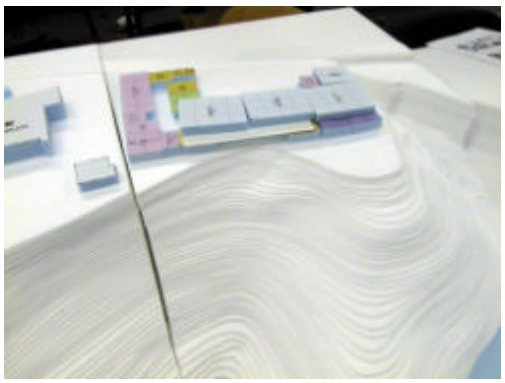
「良い点」
・管理、収蔵部門等の非公開部分と展示室等の公開部分がうまく分ける事ができる。
・喫茶コーナーが別棟にできる。
「悪い点」
・一般的な展示空間となってしまいそう。</td></tr>
</table>

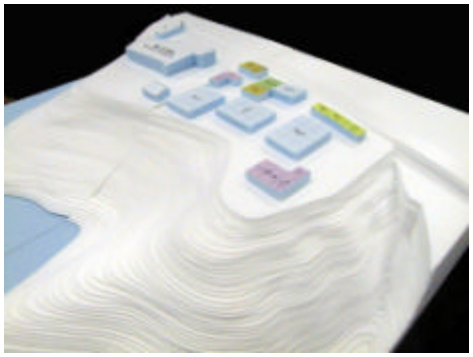
B案；１階Ｌ型	
模型写真	案の説明
 	**エントランスを西側（国道側）に設ける。全てを１階に配置し、Ｌ型にする。** **南側に展示室、北側にその他の機能を配置する。** **良い点・悪い点** **「良い点」** **・展示室を連続して面積を大きくとることが出来る。** **「悪い点」** **・平屋建てにすると、周りの庭などのスペースがあまりとることが出来ない。** **・人々がＬ型にしか動かず、単調になってしまう。**

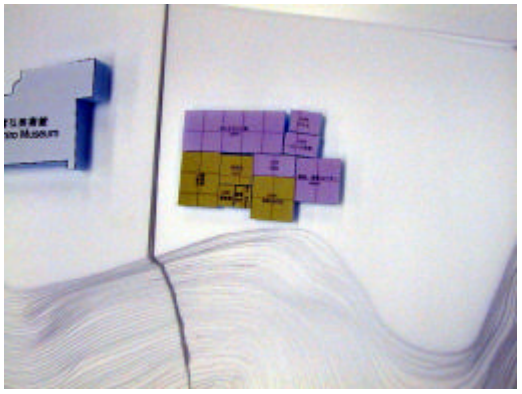
C案；中庭型	
模型写真	案の説明
  	**中庭を設け、その周りに展示室等を配置する。中庭側に廊下を設け、エントランスは吹き抜けにする。** **１階に、収蔵部門、管理部門と教養普及部門等を配置する。2 階に展示部門を配置する。** **良い点・悪い点** **「良い点」** **・中庭に詩画にでてくる草花を植え、実際に体感できる空間を作れる。** **「悪い点」** **・中庭側に通路があるので、外の環境との関連が薄れる。** **・通路が内側に一つだと、管理などの非公開部分と展示室などの公開部分の動線が重なる。**

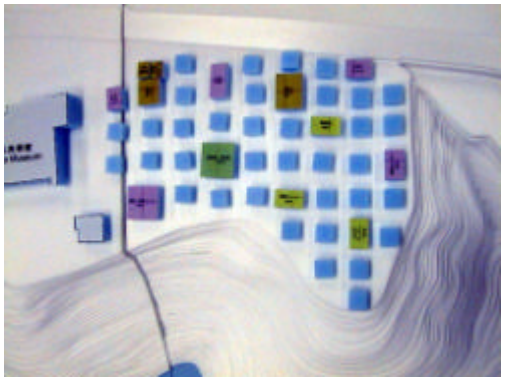
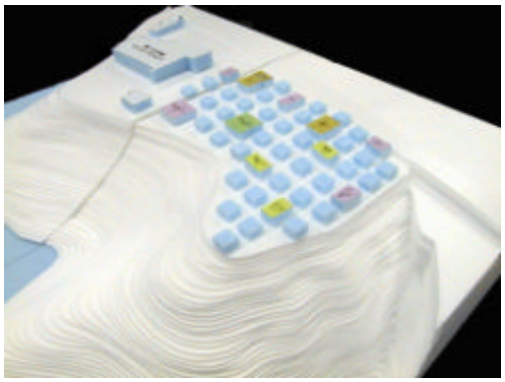
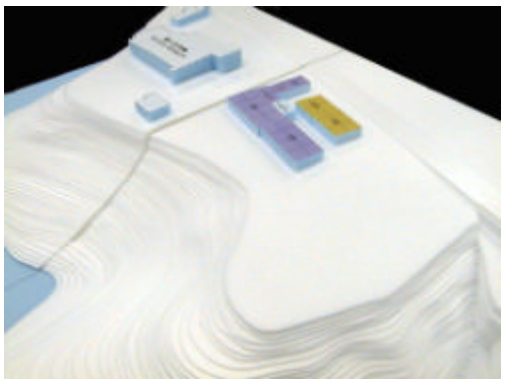
D案；突きだし型	
模型写真	案の説明
 	**建物の一部が湖側に突き出ている。収蔵、管理、共用部門等は、西側に配置する。エントランスは湖側に配置する。湖側に突き出た部分はカフェを配置し、眺望できるようにする。** **良い点・悪い点** **「良い点」** **・突き出た部分とエントランスから湖側の景色を眺望できる。** **「悪い点」** **・展示室が１，２階に分かれるので、人が展示を見て回るのに動線が分かりにくい。**

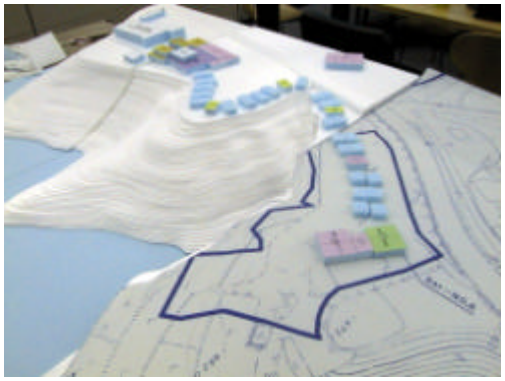
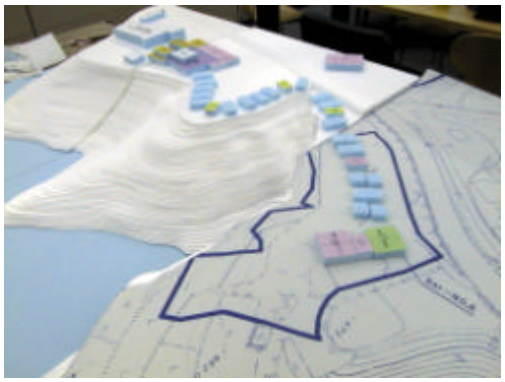
E 案；４棟分離型	
模型写真	案の説明
 	**エントランス等の共用部門を中心に配置し、その他は、収蔵部門、展示部門、研究、教養普及部門と３つに分けて配置する。共用部門からそれぞれの棟へ通路でつなぐ。** **良い点・悪い点** **「良い点」** **・ゾーンごとに空間を明確に分けることができる。** **「悪い点」** **・展示作品を収蔵庫から展示室へ運ぶのに、1度共用を通る事になる。** **展示室が３階になり、わざわざ上がって見て回らなければならない。**

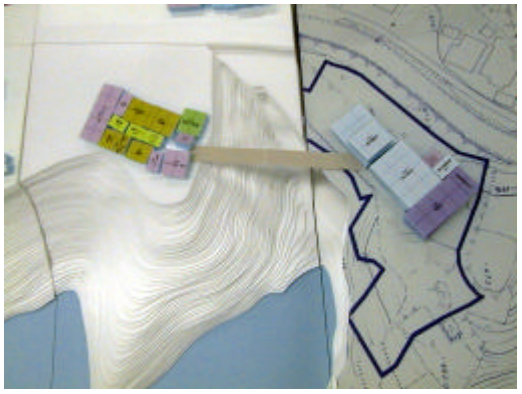
F案；門型	
模型写真	案の説明
 	**収蔵部門と共用、研究、教養、管理部門とに２つに分け、それらを１階に配置する。2 階に常設展示室を配置し、2 階部分で 2 つの棟をつなぐ。エントランスは吹き抜けにする。** **良い点・悪い点** **「良い点」** **・エントランス部分が広くでき、吹き抜けなのでゆったりとした空間がつくることができる。** **・１階の間が半屋外のようになり、何かに利用できる。** **「悪い点」** **１階は、２つに分かれているが１つは収蔵と機械室のみとなってしまい、一般客はエントランス側のみの利用となる。**

G案；全体分離型	
模型写真	案の説明
 	**全ての機能を別々にして配置する。収蔵部門と機械室等は地下に配置する。** **良い点・悪い点** **「良い点」** **・各室への行き方を自由に選択できる。** **・各室の間に出来た屋外空間は何かできそう** **「悪い点」** **・別々にすると管理をどうするか考える必要がある。** **・展示室の搬入が困難。** **各室とのつながりを考える必要がある。**

H案；地下型	
模型写真	案の説明
  	**全て地下に配置して、建物をあまり見せないようにする。崖側に沿わせて配置し、崖の中から景色を見せる。エントランスや事務所、売店などがある入口だけ地上に配置する。**
	良い点・悪い点
	「良い点」 **・地下にすると地上部分を他のことに利用できる。** **「悪い点」** **地下なので持ってきた作品を搬入しにくい。**

Ｉ案；展示分離型	
模型写真	案の説明
  	**展示室を小さい部屋にして、異なる大きさの部屋をいくつもつくる。その間に、図書コーナー、会議室などを配置する。収蔵部門、機械室等は地下へ配置する。** **良い点・悪い点** **「良い点」** **・様々な大きさの展示室をつくることにより、それぞれの展示室ごとで性質の違う空間を作れる。** **・訪問者は各室への行き方を選択できる。** **「悪い点」** **・バラバラに配置すると管理が困難になる。** **・各室とのつながりを考える必要がある。**

J案；展示橋型	
模型写真	案の説明
 	**北側の計画地も利用する案。エントランスは中工場跡地に設け、そこから北側の東工場跡地へ展示室を通路のようにしてつなげる。展示室の間に図書コーナーや講座室などを配置していく。** **良い点・悪い点** **「良い点」** **・作品をスムーズに流れにそって、見ることができる。** **「悪い点」** **・建物が細長くなるので、距離が遠くなる。** **・中工場跡地に収蔵庫を配置すると、東工場跡地側の展示室へ運ぶのが大変になる。** **中心に一つ通路をつけるだけでは、管理などの非公開部分と展示室などの公開部分を通る一般客と動線が重なる。**

K案；橋型	
模型写真	案の説明
  	**中工場跡地と東工場跡地に別々の棟を建て、それを橋でつなぐ。中工場跡地にエントランス、管理部門、研究、教養普及部門などを配置し、東工場跡地には、展示室、収蔵部門を配置する。橋を渡るときに何かできるようにしたい。** **良い点・悪い点** **「良い点」** **・展示室を別棟にすることで特別な空間（詩画の空間）へ入っていくように位置付けできる。** **「問題点」** **２つの棟のつながりが橋だけになる。別の棟への移動が１つしかない。**

6-3． 案の選定

前回までに出ていたA案からJ案の11案を評価基準に基づき評価する。評価基準は以下のように設定した。これらを設計方針を考えながら、○、×、△を付けていき選定していく。評価基準は、ワーキンググループ検討事項（参考資料参照）を参考にし、５つの評価基準を設定した。

“内部の管理と一般客の動線”というのは、管理する者にも使いやすいようにするためと一般客が詩画をスムーズに鑑賞できるようにするために設けた。“詩画鑑賞にふさわしい展示空間”は、詩画を鑑賞する空間として、どれくらいの広さが適当か、またどういう展示形態が良いのかということである。“現美術館との関係”は、現在の美術館は新しい美術館ができるまでは利用するため、現美術館との関係を考えて設計する必要があるためである。“外構は有効に利用できるか”は、敷地が分かれているためそれらの敷地をどう利用するか考える必要があるためである。“周りの景色を眺望できるか”は、周りの美しい自然を活かせる美術館を考えていく必要があるからである。

表 6-3. **評価表**

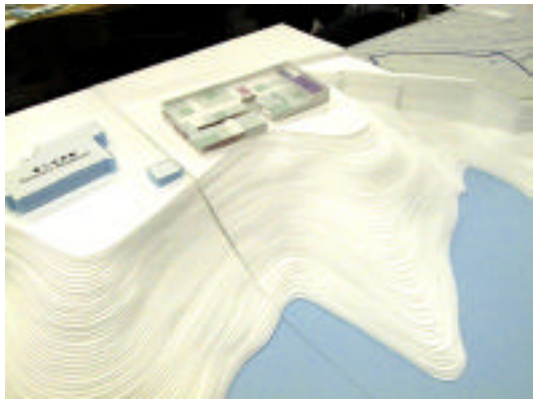
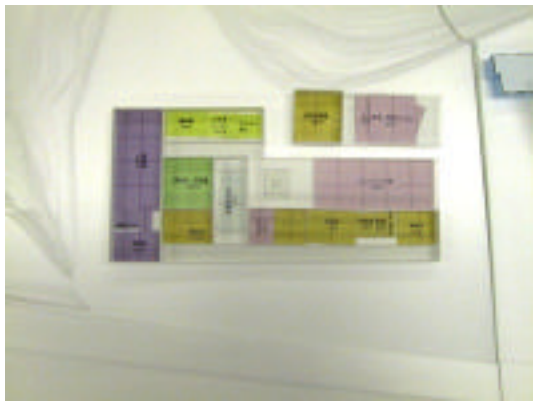
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
内部の管理と一般客の動線	○	△	△	×	△	△	×	△	△	△	△
詩画鑑賞にふさわしい展示空間	△	×	△	△	○	△	○	△	○	○	△
現美術館との関係	△	△	△	△	△	×	△	○	△	×	×
外構は有効に利用できるか	△	×	△	△	△	△	○	○	○	△	△
周りの景色を眺望できるか	△	△	×	○	△	○	△	△	△	○	△

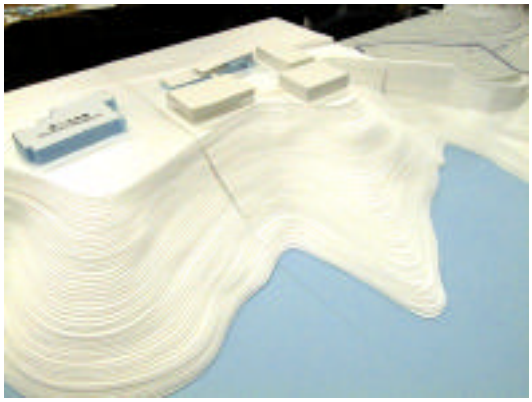
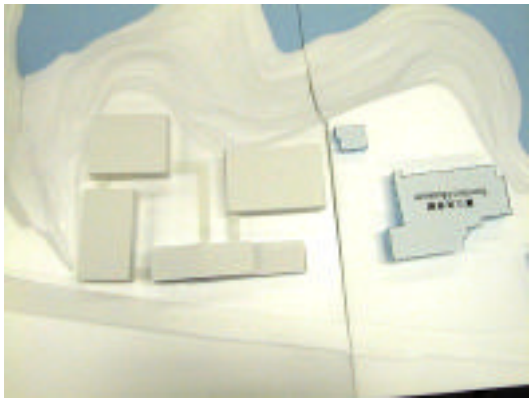
選定案

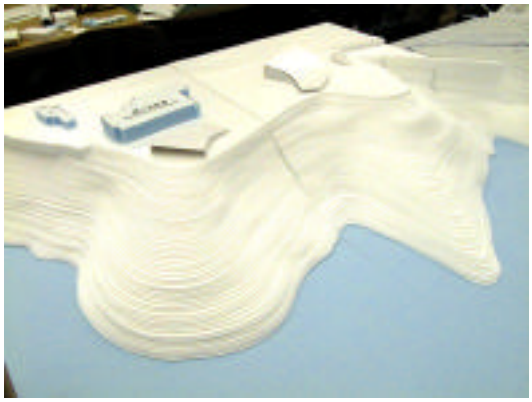
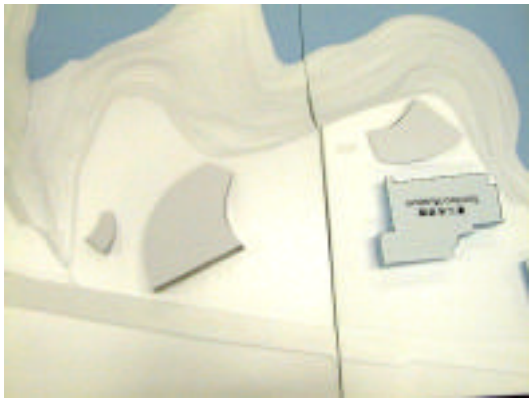
選定するにあたって、○の多いものを選定していった。そうすると、A、E、G、H、I、Jの６案となる。この内、G案とI案は諸室を分離している案と似ている案なので同じ案として考えていく。全体としては、５案を選定したことになる。その他の選定しなかった案も５案に共通する部分は取り入れ、考えていくこととする。

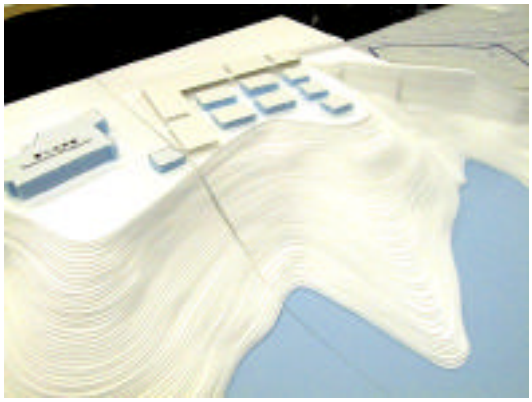
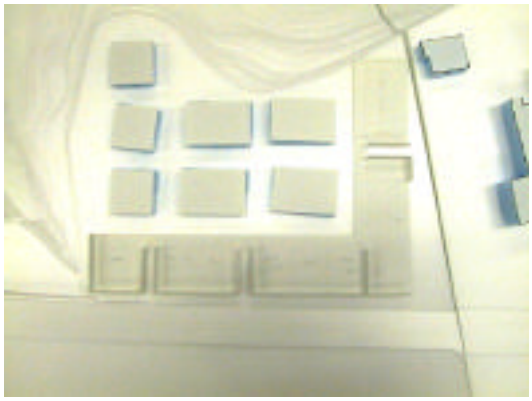
6-4． 第３次案作製

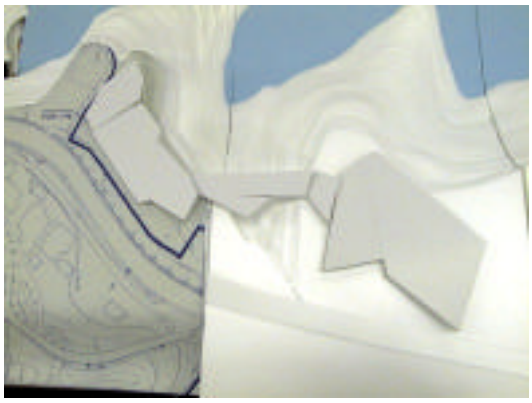
５つの案に絞った案をさらに、細かく考えていく。

<table>
<tr><th colspan="2">A 案；二階一体型</th></tr>
<tr><th>模型写真</th><th>案の説明</th></tr>
<tr><td rowspan="2"> 
 
 </td><td>・南側にエントランスを設け、管理部門、収蔵部門、研究部門等は１階に配置する。管理、収蔵部門は西側に配置し、管理用の通路を設け、公開部分と動線を分ける。2 階は、常設展示室を配置する。喫茶コーナー、売店は外通路を挟んで別棟にする。全体としては屋根で繋がっているので一体となる。
・２階の常設展示室は、いくつかの小さな部屋に分け、その一つ一つに小さい庭を設け、それに詩画に出てくる草花を植える。</td></tr>
<tr><td>コメント
・展示室と廊下のバランスがあまり良くない。グリットを使い、通路のぬけをつくったりするとよい。メリハリをつけるべき。
・ダブルグリットを使って通路と展示室を分けてもよい。
・庭は、一つ大きいものがあるとよい。１階から２階まで通っていてもいい。
・別棟にしてある喫茶室等の配置が良くない。</td></tr>
</table>

B 案；四棟分離型	
模型写真	案の説明
  	・ エントランス等の共用部門を中心に配置し、その他は、収蔵部門、展示部門、研究、教養普及部門と３つに分けて配置する。共用部門からそれぞれの棟へ通路でつなぐ。 ・ 研究・教養部門は、２階に上げて、下を使えるようにした。 ・ もう一つの外を歩く美術館の道を施設内に取り込むようにする。 ・ 展示室は中心にスロープを設けて、上がっていくように考えている。
	コメント
	・ 研究・教養部門の下がうまく使えればよいが、柱が出てくるので少し良いのかは疑問。 ・ エントランスの建物の形（屋根）が、他の建物と違うのでおかしい。形を違えるなら、もっと考えるべき。 ・ 全部の建物が曲がっていても良いかもしれない。

C 案；地下型	
模型写真	案の説明
  	・全て地下に配置して、建物をあまり見せないようにする。崖側に沿わせて配置し、崖の中から景色を見せる。エントランスや事務所、売店などがある入口だけ地上に配置する。 ・地下は、全体をスロープにして上げていき、最後に地上に出て景色が見られるようにする。 ・通路部分には、小さなのぞき穴のような窓をつけ、そこから、湖側の景色を見せる。 ・展示室は、巣穴のようにする。
	コメント
	・全て地下にするのは少し暗い感じがして厳しいので、ドライエリアを設けるべき。中庭やトップライトをうまく使うと良い。 ・形が不自然な形なのでおかしい。 ・外構が良ければいい。

D 案；展示分離型	
模型写真	案の説明
 	・展示室を小さい部屋にして、異なる大きさの部屋をいくつもつくる。その間に、図書コーナー、会議室などを配置する。収蔵部門、機械室等は地下へ配置する。 ・有料ということを考えると、全て分離しているのはつらいので、展示室以外はひとまとめにし、展示室を区切るようにした。 ・まとめた部分は、分離しているように見せるため、間に窓を設け展示室が見えるようにした。 ・まとめた建物の展示室側は全面ガラスにし、自由に出入りが出来るようにした。
	コメント
	・Ｌ型に区切ると敷地が狭くなるのでよくない。 ・全体的に広がりをもたせる。 ・Ｌ型ではなく、直線でいいのでかないか。 ・この案であれば、現美術館はなくして考えなければならない。 ・通路はつながっている方がよい。

E 案；橋型	
模型写真	案の説明
   	・北側の計画地も利用する案。エントランスは中工場跡地に設け、そこから北側の東工場跡地へ展示室を通路のようにしてつなげる。展示室の間に図書コーナーや講座室などを配置していく。 ・全体を一つの通路のようにし、広がったスペースやくぼみのようなスペースを展示室にする。 ・所々を開けて、自然を眺められるようにし、開放感を出す。
	コメント
	・東工場側の建物が詰まりすぎている。 ・橋の部分は構造的に危険。 ・湖側は同じ感じにしたほうが良い。全体的に統一する。 ・この案は敷地を有効に使い、建物をもっと細長くするべき。

6-5．　案の選定

次に、５つの案の中からよい提案ができそうなものを選び、細かい部分の提案へ入っていくことにした。そこで、５つの案の中からC案；地下型を選び、案を進めていった。

（１）地下型案―１案目―

・星野富弘の詩画について

星野富弘の詩画は、前向きに生きていくということを詩と絵で表現している。彼の詩画を見る人々に「生きていく」ヒントを与えてくれるものである。草花の絵と詩で自然の美しさ、素晴らしさの発見や自己の弱さを見つめ、新たな自分や強さ、生きる力を訴えかけている。そこで、

・ 自己を見つめなおす場

・ 何気なく生活している日常や健康のありがたさの再認識の場

・ 「生きていく」ヒントを与えてくれる場

・ 見過ごしてきた自然の素晴らしさの再認識の場

が必要ではないかと考えた。

星野さんの生き方や作品、周りの自然から、「生きていく」希望を感じ取れる空間の提案が必要だと考える。

・C 案；地下型のコンセプト

「希望の場所」

星野さんの生き方から自分の生き方を見つめなおすためのキッカケの空間を提案する。

建物の形としては、あまり地上には建物はださず、自然と同化するようにする。地中や森に入り込んでいくイメージ。

１．星野富弘さんの生き方を知る。

作品を見る前に、まず星野さんの生き方を知る必要がある。それは、どういうことからこのような詩画作品が生まれるのか、星野さんが何を訴えたいのかを知ってから作品を見るべきであると考える。

最初に、ビデオコーナー、講座室、図書コーナーを配置する。

２．星野さんに近づくための身障者体験

湖側の通路部分に、詩画サイズの窓を車椅子の高さに設ける。窓からは、遠くには湖、

近くにはタンポポなどの草花を植え、それが見えるようにする。その通路は薄暗くし、星野さんが絶望していた時期から抜け出したキッカケのように、暗闇の中から見える美しい何気ない風景を見せる。

普段歩いている目線の高さだと見過ごしそうな、地面に咲く小さな草花も低い目線で見るとまた違ったように見え、新たな発見につながる。

3．展示をみる

一般的な展示室は、作品をスムーズに見ていくために、順番に作品を並べ、ある程度つながっている展示室が多かった。

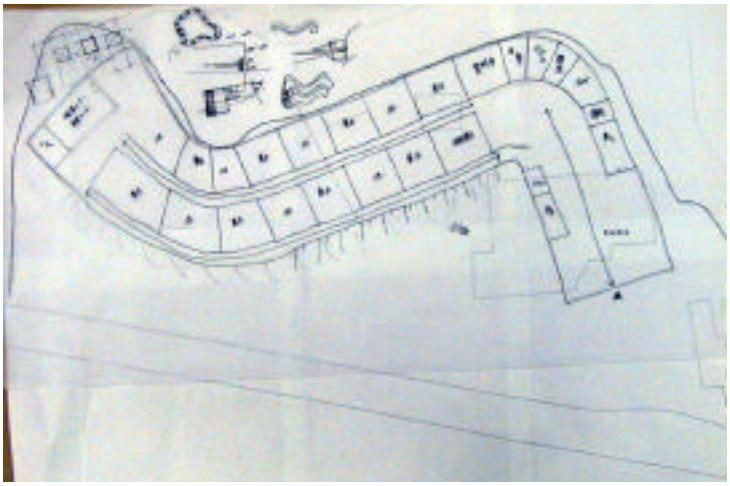
富弘さんの詩から、毎日を忙しく過ごしていくのではなく、時には休むことも必要であるという思いを考え、展示室は、大きな部屋にするのではなく、小さな部屋にし、その間間に休憩する空間を設け、ゆっくりと作品を見ていくようにする。休憩する空間で展示室をつなぐ。

また、その休憩室には、トップライトなどを設け、暗闇の中にやわらかく差し込む自然の光を入れ、希望の光とする。

4．最後に自然を体感する。

スロープで上がっていき、最後には地上に出て、美しい自然の風景を眺める空間をつくり、自然の美しさの再認識と暗闇から抜け出た希望の将来をイメージさせる。

写真6-5．　地下型案の平面スタディ写真

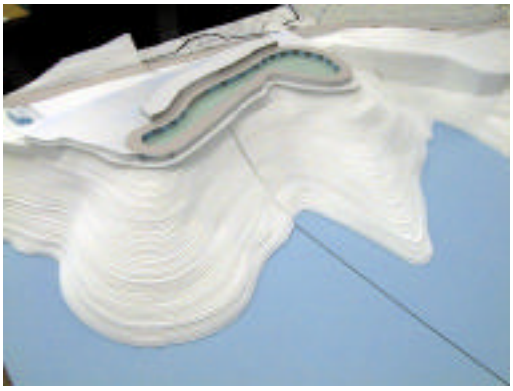
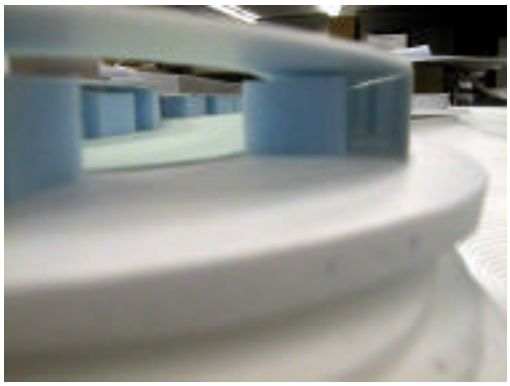


「コメント」

現在ある美術館にかかっているので、それは良くない。まだ展示室の大きさが大きい。展示する作品数を考えて部屋の大きさを決める。展示室はつながっていてもよいのではないか。

（2）地下型案―２案目―

コンセプトとしては、１案目と変わらない。形は、リング状につないだもので、地上に共用と事務などを配置し、地下に展示室と休憩室を交互に配置していっている。地下には中庭を設けている。展示室と休憩室は４m×４mの大きさで配置していっている。作品の展示数は一つの展示室に９つの展示ができるようになっている。

模型写真
全体模型写真  部分模型写真  展示室、休憩室の模型写真

「コメント」

この案であれば、地上にあっても問題はないのではないか。展示室と休憩室の大きさが一定すぎる。変化がない。湖側の形は等高線に合わせているが、国道側の形はいまいち良くない。

その後、地下案の問題点等を考えながら平面スタディを行った。

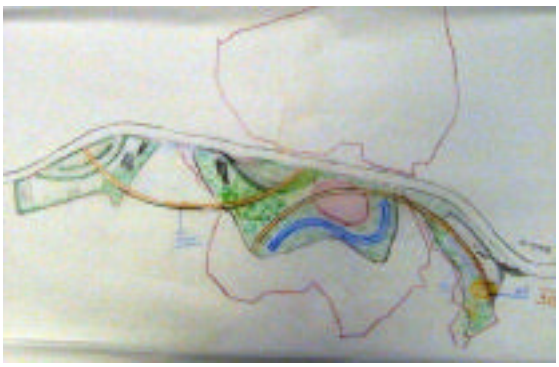
平面スタディ写真

1.

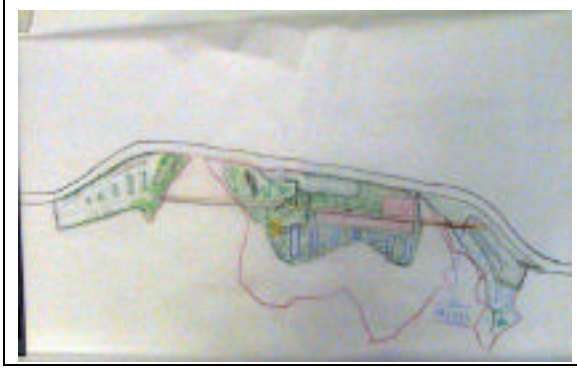
2.

3.

4.



5.

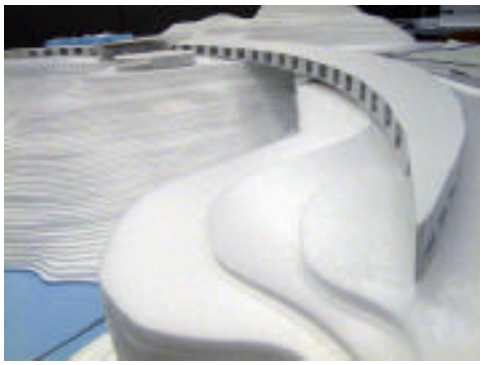


6.

6-6．　最終案

地下案ででた問題点を考え、もう一度案について考え直した。その結果、最終的には小さい展示室と休憩室が交互に配置するという案はそのままにして地上に三日月状に配置することとした。

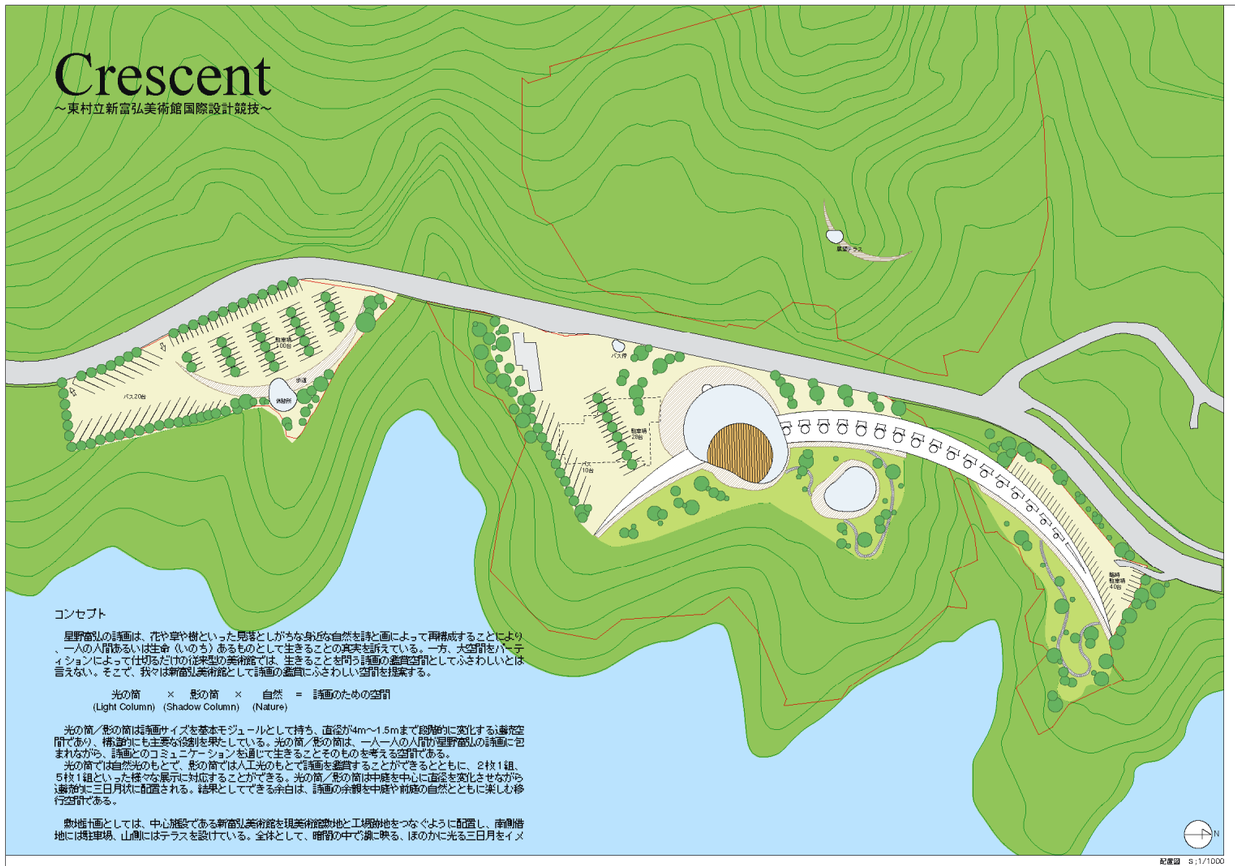
この三日月案は、三日月状の部分に展示室を配置し、そらまめ型のところにエントランス、収蔵部門、図書コーナーなどを配置している。小さいそらまめ型の建物は、カフェと売店としている。また、展示室には小さな中庭を配置し詩画に出てくる草花を楽しめるようにしている。

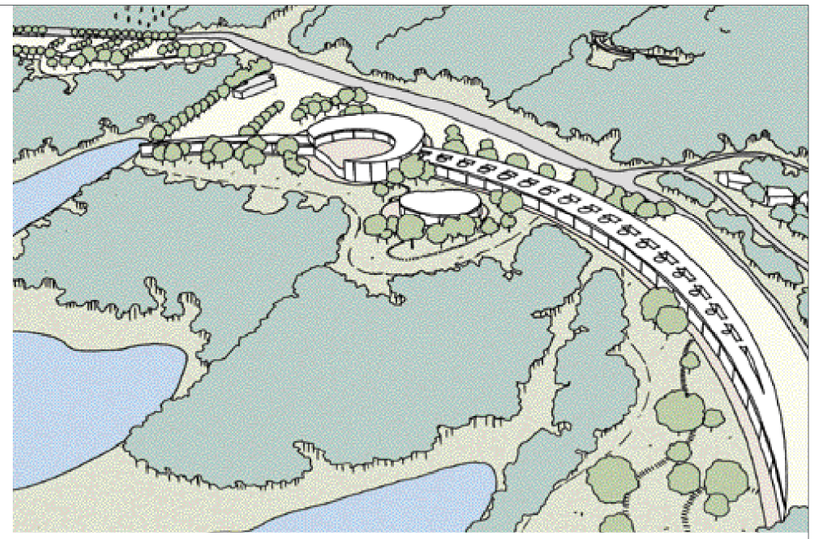
模型写真


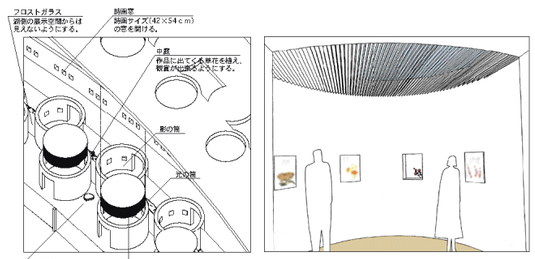
7．　応募作品（最終案）

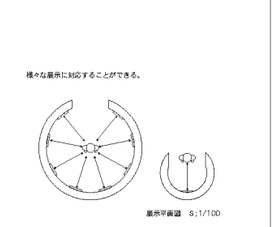
7-1．　応募提出作品（縮小版）

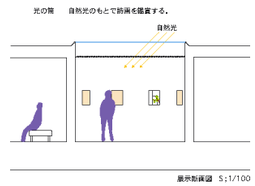
以下の図が、設計競技へ応募した作品である。（A１版を縮小したもの。）

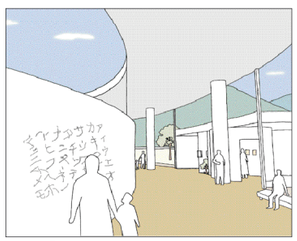


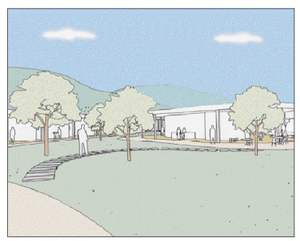


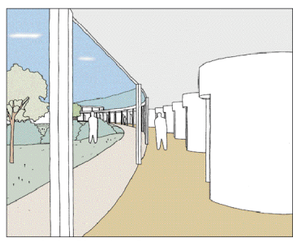


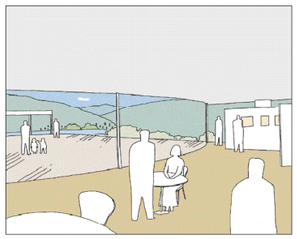


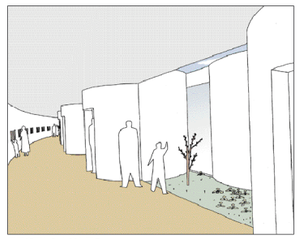


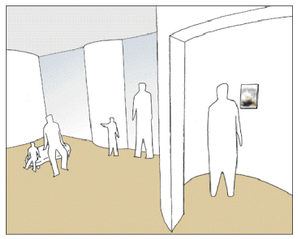

大展示を見る


庭からカフェを見る


展示側からエントランス方向を見る

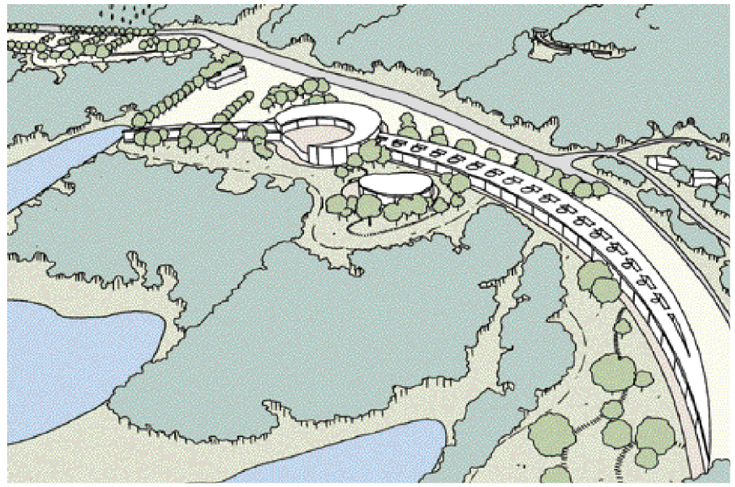

2階から外を見る

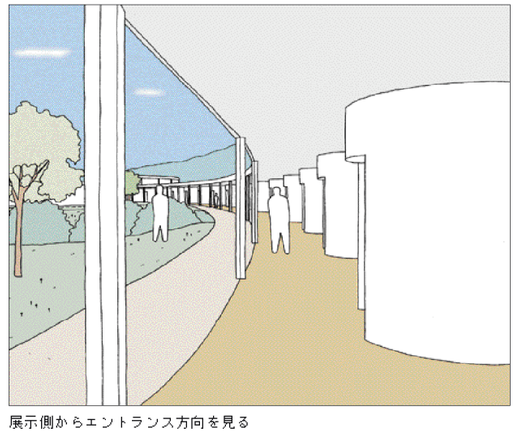

展示廊下から中庭を見る


展示室と休憩空間を見る

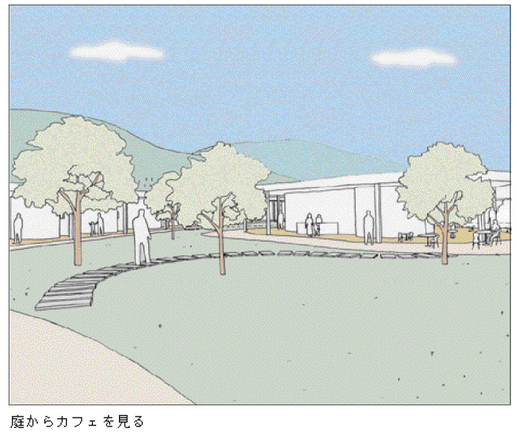
7-1． 主旨、配置図

配置図 S:1/2000





展示側からエントランス方向を見る



庭からカフェを見る

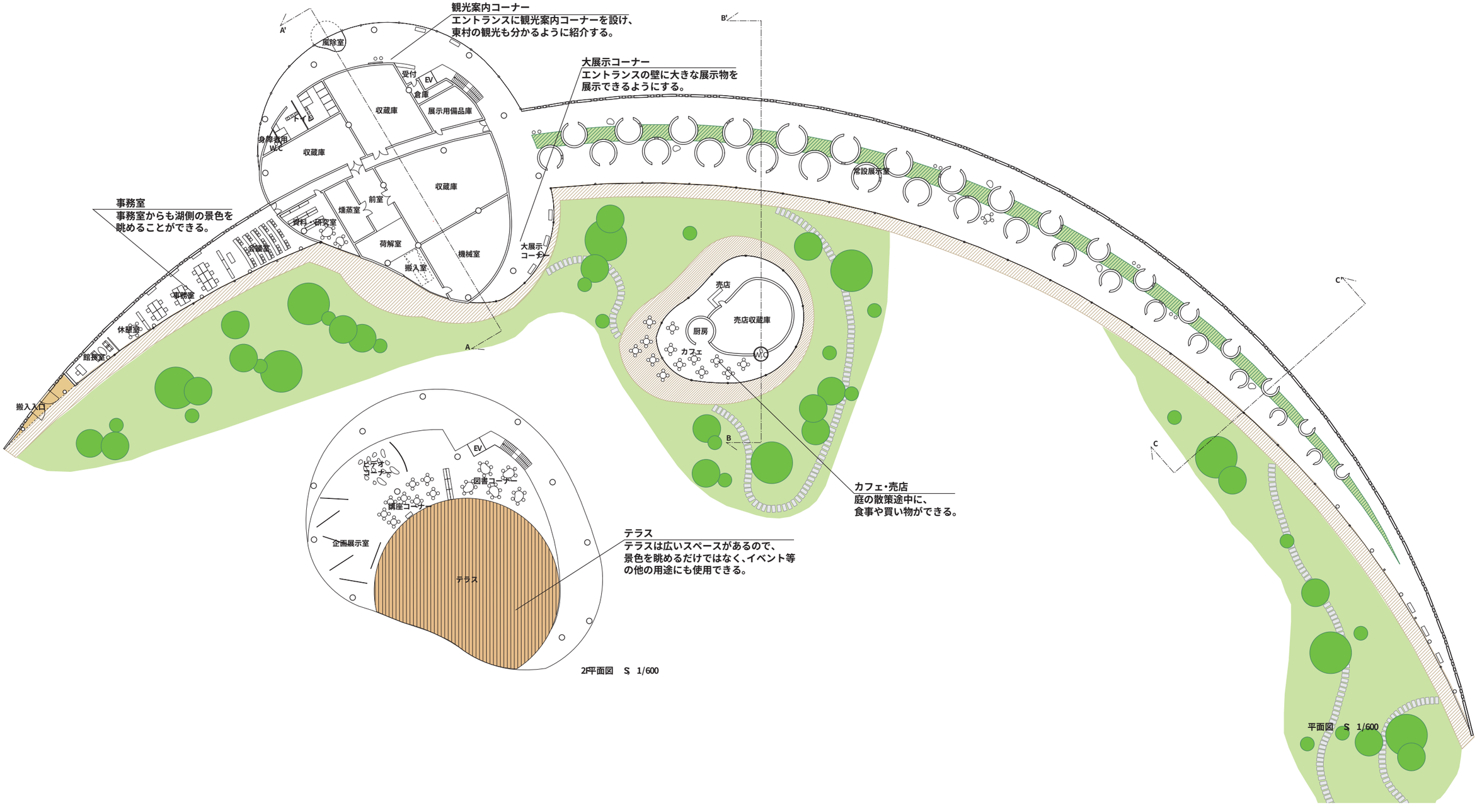
星野富弘の詩画は、花や草や樹といった見落としがちな身近な自然を詩と画によって再構成することにより、一人の人間あるいは生命（いのち）あるものとして生きることの真実を訴えている。一方、大空間をパーティションによって仕切るだけの従来型の美術館では、生きることを問う詩画の鑑賞空間としてふさわしいとは言えない。そこで、我々は新富弘美術館として詩画の鑑賞にふさわしい空間を提案する。

光の筒 × 影の筒 × 自然 = 詩画のための空間
(Light Column) (Shadow Column) (Nature)

光の筒／影の筒は詩画サイズを基本モジュールとして持ち、直径が4m～1.5mまで段階的に変化する連続空間であり、構造的にも主要な役割を果たしている。光の筒／影の筒は、一人一人の人間が星野富弘の詩画に包まれながら、詩画とのコミュニケーションを通じて生きることそのものを考える空間である。
光の筒では自然光のもとで、影の筒では人工光のもとで詩画を鑑賞することができるとともに、2枚1組、5枚1組といった様々な展示に対応することができる。光の筒／影の筒は中庭を中心に直径を変化させながら連続的に三日月状に配置される。結果としてできる余白は、詩画の余韻を中庭や前庭の自然とともに楽しむ移行空間である。

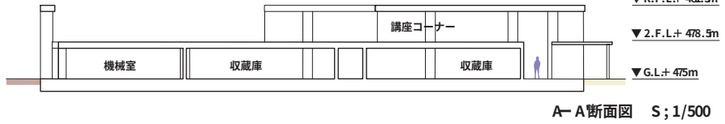
敷地計画としては、中心施設である新富弘美術館を現美術館敷地と工場跡地をつなぐように配置し、南側借地には駐車場、山側にはテラスを設けている。全体として、暗闇の中で湖に映る、ほのかに光る三日月をイメージしたものとしている。

7-3. 平面図、断面図

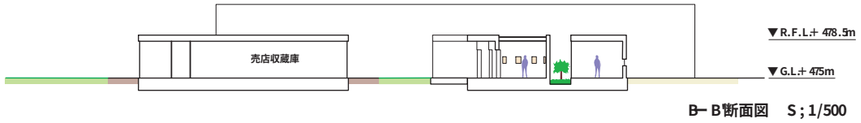


2F平面図　S　1/600

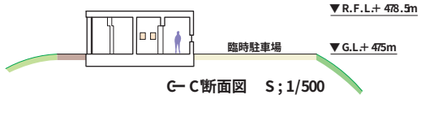
平面図　S　1/600



A― A断面図　S ; 1/500



B― B断面図　S ; 1/500



C― C断面図　S ; 1/500

7-4.　展示室の説明

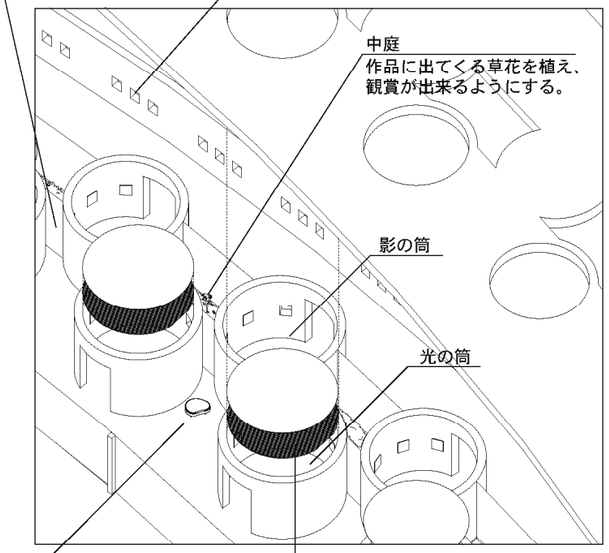
フロストガラス
湖側の展示空間からは
見えないようにする。

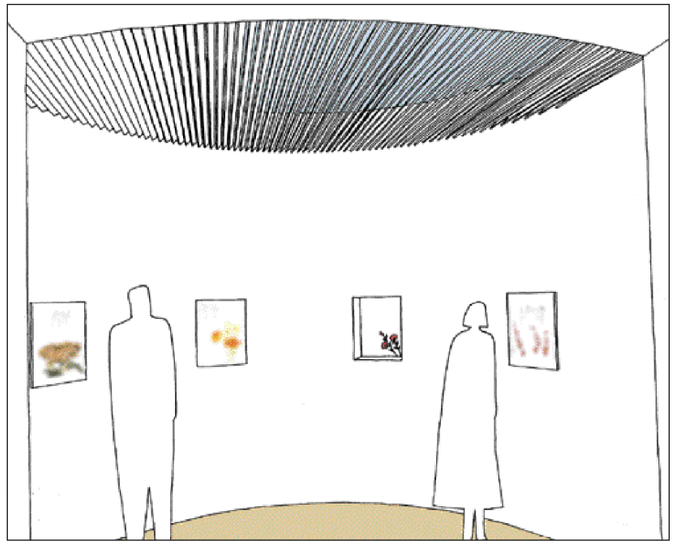
詩画窓
詩画サイズ（42×54ｃｍ）
の窓を開ける。

中庭
作品に出てくる草花を植え、
観賞が出来るようにする。

影の筒

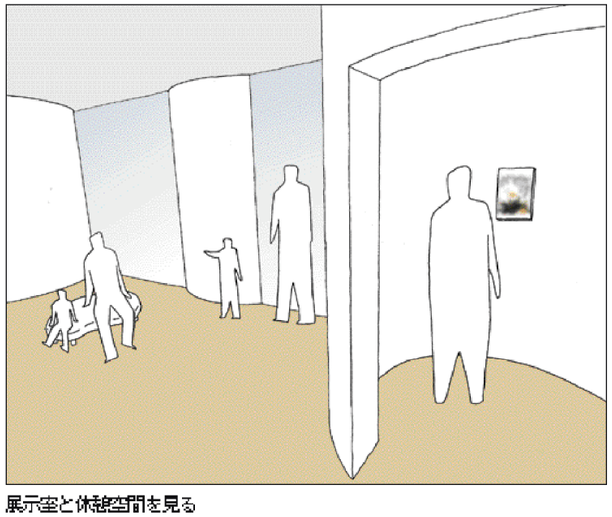
光の筒



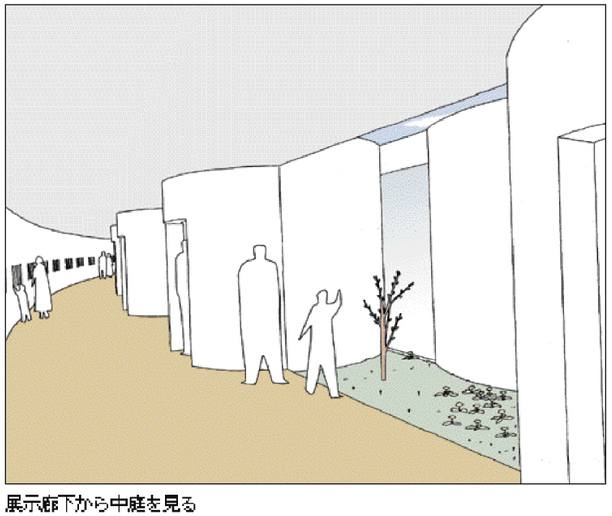


移行空間
展示を見る合間に
休憩しながら景色を楽しむ。

可動ルーバー
自然光を調節する。

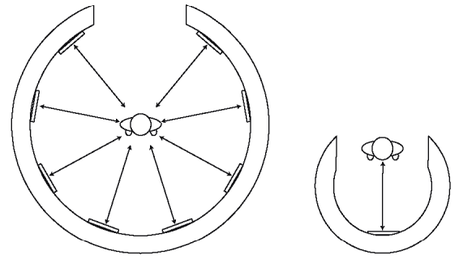


展示室と休憩空間を見る



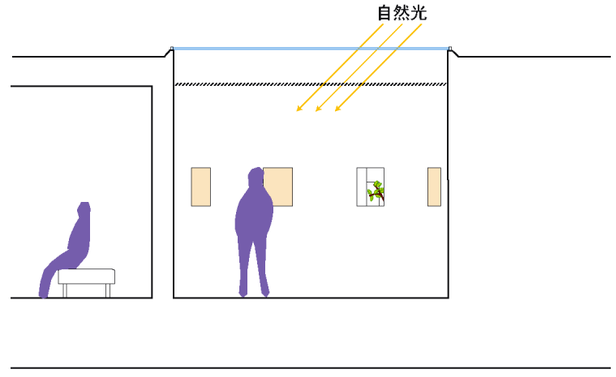
展示廊下から中庭を見る

様々な展示に対応することができる。

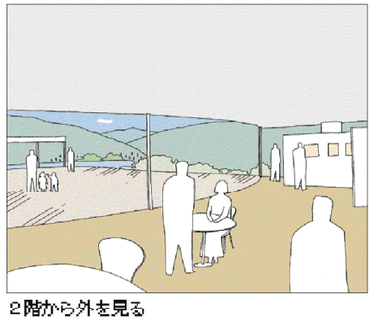


展示平面図　S；1/100

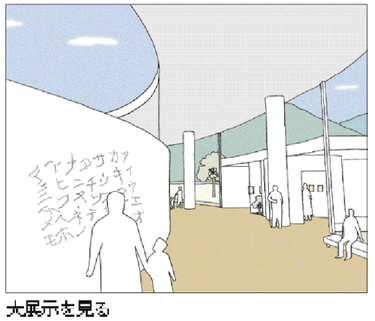
光の筒　　自然光のもとで詩画を鑑賞する。



展示断面図　S；1/100



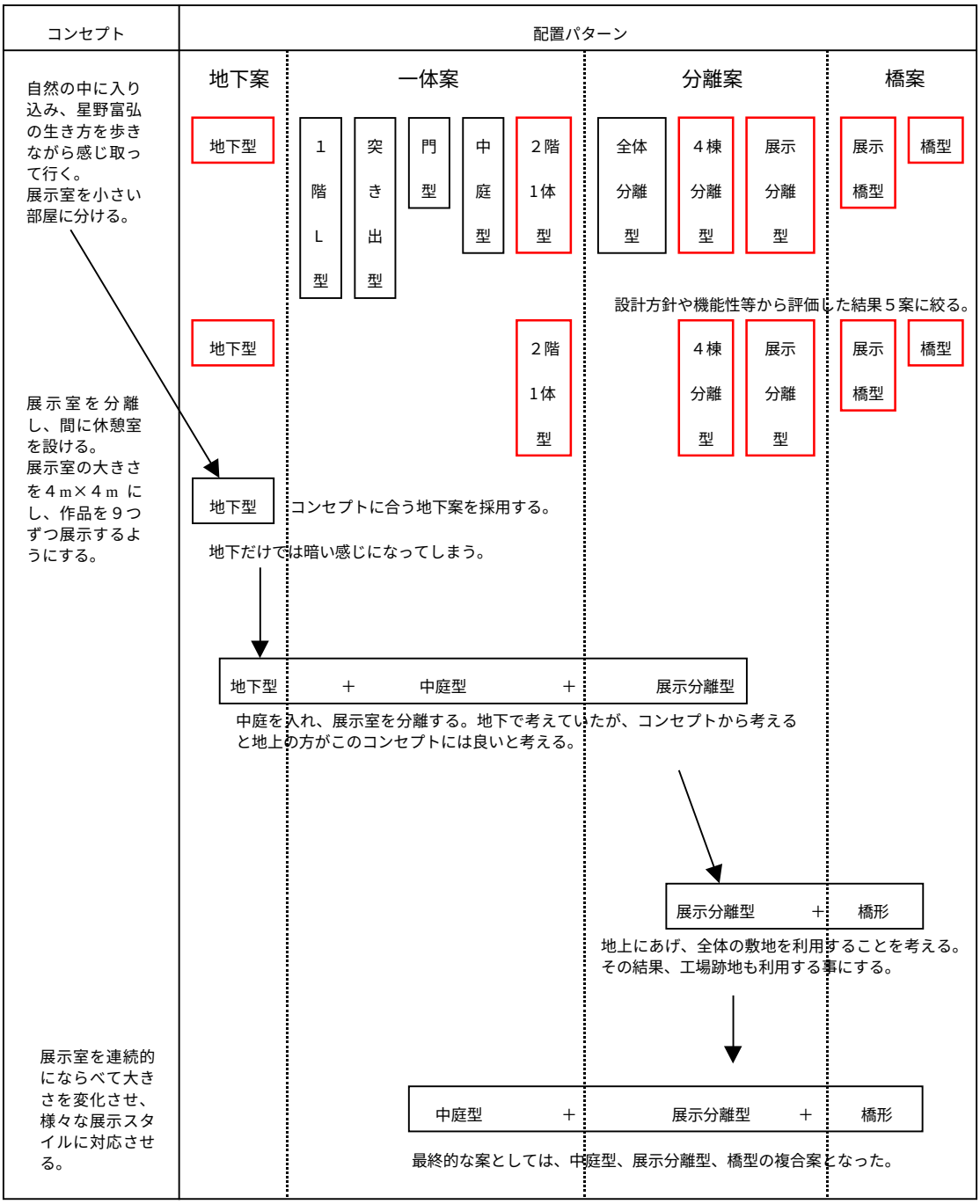
２階から外を見る



大展示を見る

7-5．　まとめ

今回の東村立新富弘美術館国際設計競技を通して、詩画にふさわしい空間について深く追究していった。最初の１１案からスタディを重ね、徐々に案を絞っていったが、さらに突き詰めていくと様々な問題等が挙がり、結果としては全部の案の積み重ねから出来上がった案だと言える。最終案は、中庭型と橋型、展示分離型を組み合わせた形態となっている。



謝辞

本設計にあたり、御指導していただいた吉田晋先生、大谷英人先生に感謝の意を表したいと思います。その他、御協力いただいた吉田研究室の皆様にも感謝いたします。

皆様、本当にありがとうございました。

本設計は、吉田研究室の初めての修士設計となります。最初はどうなるか、少し不安もありましたが、先生方の御指導のおかげでここまでたどり着くことができました。今後、修士設計をしていかれる方々の一つの見本となれば幸いです。

また、高知工科大学に入って５年間にお世話になりました社会システム工学科の先生方、本当にありがとうございました。

参考資料

富弘美術館建設検討委員会

委員会構成

(1)構　成：　　委員長、副委員長、委員、計１８名

(2)委員長：　　大学教授（１名）

(3)委　員：　　大学関係（１名）

行政関係（５名）

富弘美術館を囲む会　（２名）

村民　　（８名）

その他　（１名）

(4)事務局：　　富弘美術館職員　　（３名）

議事録（抜粋）

１、第１回東村立富弘美術館建設検討委員会（２０００年８月３日）

(1)美術館建設地については２０００年中に村当局で決定すべく要望。

(2)２００４年春開館を目標とするが今後の進め方によっては変更もあることを確認。

（応募要項では２００５年春開館とした。）

(3)本会議は全て公開。

(4)検討委員会の下に小委員会（ワーキンググループ）を設置。

(5)美術館を中心とした村づくりをあわせて検討。

２、第２回東村立富弘美術館建設検討委員会（２０００年１０月２６日）

(1)設計者決定方式と契約方式について検討。

３、第３回東村立富弘美術館建設検討委員会（２０００年１１月２２日）

(1)設計者候補について検討。

４、第４回東村立富弘美術館建設検討委員会（２００１年４月２７日）

(1)設計者決定方法に関し随意契約方式と国際設計競技方式について検討。

(2)開館期日を２００５年の春に延期。

(3)２００１年中に設計者と業務契約。

(4)住民参加で進めたい。

５、第６回東村立富弘美術館建設検討委員会（２００１年６月９日）

(1)国際設計競技方式に決定。

(2)「東村立新富弘美術館建設国際設計競技」応募要項、ならびに資料を承認。

(3)募集開始は２００１年８月１日。

(4)審査は一般公開。

小委員会（ワーキンググループ）検討事項（抜粋）

検討委員会の下に小委員会（ワーキンググループ）を設置し、新美術館についての意見を集約した。これらの意見の取り扱いについては、応募者の自由な解釈とする。

１、新美術館について

(1) 詩画の美術館としての特徴を出す。

(2) 詩画の研究ができる施設としたい。

(3) 絵の展示以外の展示室も欲しい。

（例）写真を展示した部屋、文章を中心とした部屋、物とかを中心とした部屋等。

(4) 一つの絵をじっくり見られるような展示方法も検討して欲しい。

(5) 季節感が感じられる美術館が良い。

(6) 館内に季節の草花を飾りたい。

(7) 東村の美しい風景を活かしたい。

(8) 外の風景と文章が一体化できる空間が欲しい。

(9) 楽器の演奏や合唱ができる空間が欲しい。

(10)常設展示とは別に公募詩画展や絵手紙展、子ども達の詩画展等の企画展示をしたい。

(11)大型パネル等に書かれた文章を季節にあわせて張り替えたい。

(12)収蔵庫には富弘さんの作品の他、歴史的な作品や富弘さん縁の品物も収蔵したい。

(13)身障者の対応を考えたい

(14)盲人用の展示方法も考えたい。

(15)東村特産コーナーも考えたい。

２、収蔵について

(1)防火、耐震、防虫、防紫外線、防赤外線の対策。

(2)温湿度の急激な変化の防止。

(3)停電や空調機の故障等で作品に害を与えない構造。

３、必要と考えられる施設・設備一覧

必要施設・設備	内　　容
エントランス	・入場券販売
	・案内
	・クローク
展示室	・常設展示室１（作品５０点展示）
	・常設展示室２（作品５０点展示）
	・常設展示室３（作品５０点展示）
	・企画展示室４（詩画公募展等企画展示）

資料室・研究室　・詩画の研究
・資料保管
図書コーナー　・文章を味わう
会議室　・会議、団体視察概要説明、講演会等（５０名、１室）
ビデオコーナー　・作家、作品、制作風景等の放映ビデオコーナー（１ヶ所）
案内検索型テレビ・作品、東村、案内マップ、観光等案内等検索型ビデオ（１ヶ所）
売店　・本、絵はがき、カレンダー等販売
講座室　・詩画を中心とした活動を展開（２０名、１室）
軽食・喫茶コーナー　・業務委託運営
・防災上火気使用室は別棟としたい
音楽コーナー　・合唱、コンサート、演奏、テープ
事務室　・１ヶ所
館長室　・１ヶ所
収蔵庫（２ヶ所）　・常設展示用１ヶ所（前室付き）
特別展示用、企画展示用、一時保管用、その他富弘氏以外の作品
収蔵庫１ヶ所
展示用備品庫　・スポットライト、パネル等は収蔵庫に隣接
管理通路　・台車２台がすれちがえる幅
・床面に段差をつけない
備品収蔵庫　・本、絵はがき、カレンダー等商品の収納
・チラシ、ポスター、作業用備品等の収納
燻蒸室　・搬入の際、または定期的燻蒸
その他　・トイレ、倉庫等

東村立新富弘美術館建設国際設計競技審査委員会運営要項

（設置）

第１条　東村立富弘弘美術館建設国際設計競技（以下「国際設計競技」という。）に係る審査を行うため、東村立富弘美術館建設国際設計競技審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第２条　審査会は、次の事務を処理する。

（１）　国際設計競技に係る応募作品を審査、評価し、最優秀応募者を選定すること。

（２）　その他国際設計競技の実施に関すること。

（組織）

第３条　審査委員会は委員長及び審査委員をもって組織する。

２　　審査委員は各専門分野の実務経験者及び学識経験者等の中から勢多郡東村長が委嘱した者とする。

３　　委員長は審査委員の互選により選出する。

（任期）

第４条　審査委員の任期は審査委員会の所掌事務が終了するまでの間とする。

（委員長等）

第５条　委員長は審査委員会を総理する。

２　　委員長に事故等があるときは、あらかじめ委員長の指定する審査委員がその職務を代理する。

（審査委員会）

第６条　審査委員会は必要に応じて委員長が招集する。

２　　審査委員会は審査委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

３　　委員長は審査委員会の議長となり、会議を主宰する。

４　　審査委員会も議事は出席した審査委員の過半数をもって決する。

（報告）

第７条　委員長は審査委員会に置いて最優秀応募者を選定したときは、速やかに勢多郡東村長に報告するものとする。

（秘密の保持等）

第８条　審査委員は審査内容等服務上知り得た秘密を他に漏らしてはならない。

２　　審査委員は国際設計競技に参加する応募者に対して何らの援助もしてはならない。

（報酬及び費用弁償）

第９条　審査委員の報酬及び費用弁償の額は別途定める。

（庶務）

第１０条審査委員会の庶務は勢多郡東村立富弘美術館内、国際設計競技事務局において処理する。

（その他）

第１１条この要領に定めるもののほか審査委員会の運営に必要な事項は審査委員会で定める。

附則

この要領は平成１３年６月９日から施行する。

参考文献

- 東村立新富弘美術館建設国際設計競技ホームページ
  http://www.vill.seta-azuma.gunma.jp/tomihiro/jp/index.html
- 星野富弘　花の詩画展ホームページ
  http://www.yoshino.ne.jp/hoshino/
- 勢多郡東村ホームページ
  http://www.vill.seta-azuma.gunma.jp/
- 富弘美術館ホームページ
  http://www.vill.seta-azuma.gunma.jp/htm/azm11110.htm
- 「建築設計資料　１３　美術館」／建築思潮研究所／株式会社建築資料研究所／1986 年 6 月
- 「建築設計資料　２８　記念展示館」／建築思潮研究所／株式会社建築資料研究所／1990 年 3 月
- 「建築設計資料　４９　美術館２」／建築思潮研究所／株式会社建築資料研究所／1994 年 12 月
- 「第２版コンパクト建築設計資料集成　日本建築学会編」／社団法人日本建築学会／丸善株式会社／平成６年 8 月
- 新建築
- 「GAJAPAN　ENVIRONMENTAL DESIGN 1-2/2002　５４」／二川幸夫／エーディーエー・エディタ・トーキョー／2002 年１月